

第9次芦屋すこやか長寿プラン21 策定 に向けたアンケート調査結果について

調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和3年度を初年度とする「第9次芦屋すこやか長寿プラン21」（第9次芦屋市高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画）を策定するにあたり、市民の生活の実態や介護保険に対する考え・意向などを把握するとともに、計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

2 実施概要

(1) 調査対象

| 調査区分 | 調査対象の設定 |
|------------------|------------------------------------------------|
| 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 | 令和2年1月1日現在で、市内在住の65歳以上の高齢者の中から無作為抽出（要介護認定者を除く） |
| 在宅介護実態調査 | 令和2年1月1日現在の要支援・要介護認定者の中から無作為抽出（施設入所者を除く） |

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収（※督促状の送付あり）

(3) 調査期間

令和2年1月31日（金）～2月14日（金）

(4) 配布・回収状況

| | 配布数 | 回収票数 | 有効票数 | 無効票数 | 有効回収率 |
|------------------|-------|-------|-------|------|-------|
| 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 | 3,000 | 2,233 | 2,209 | 24 | 73.6% |
| 在宅介護実態調査 | 2,000 | 1,362 | 1,179 | 183 | 59.0% |

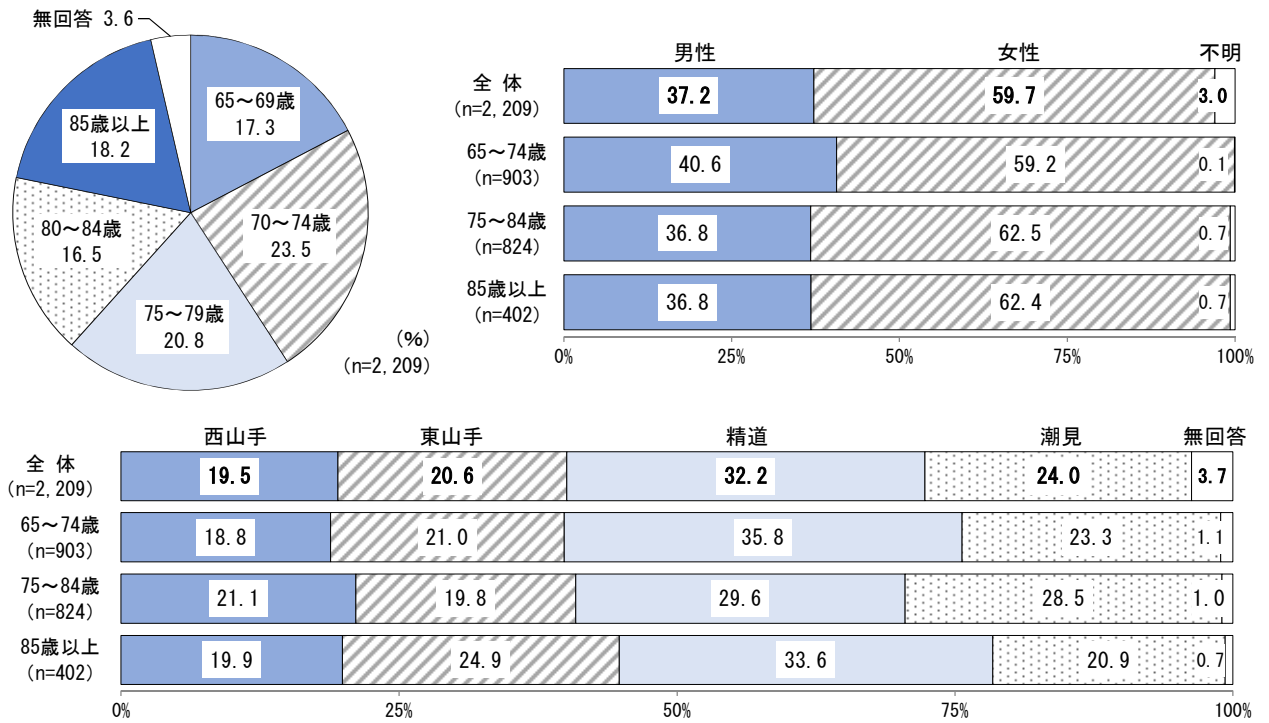
※無効票には、白票及び入院中等による回答不可の件数が含まれる。

3 報告書の見方

- (1) 図表中の「n (number of case)」は、有効標本数（集計対象者総数）を表している。
- (2) 回答結果の割合「%」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであり、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- (3) 図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示している。
 - ・ MA % (Multiple Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・ 3 LA % (3 Limited Answer) : 回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
- (4) 比較可能な設問については、前回調査（平成28年度）の結果を掲載している。

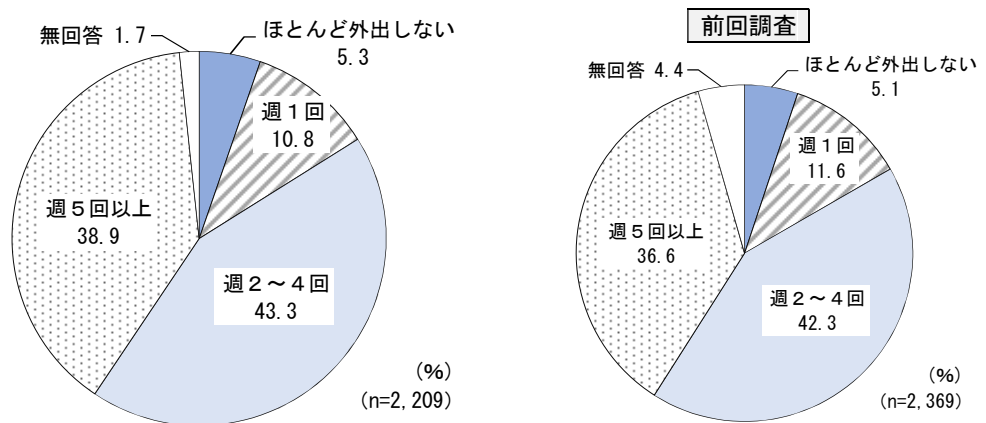
調査結果『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』

(1) 対象者の基本属性

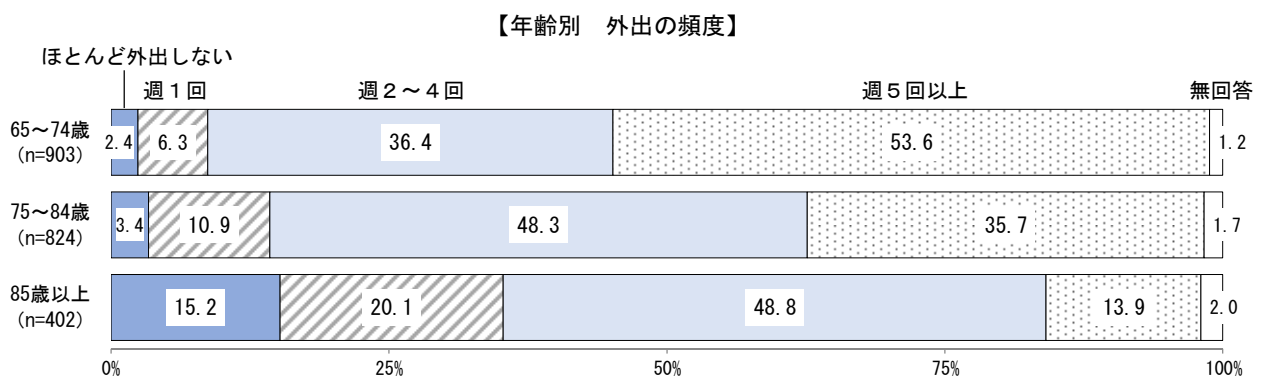


(2) 外出の頻度

週に5回以上外出する割合が 38.9%に対し、週1回以下は 16.1%となっている。

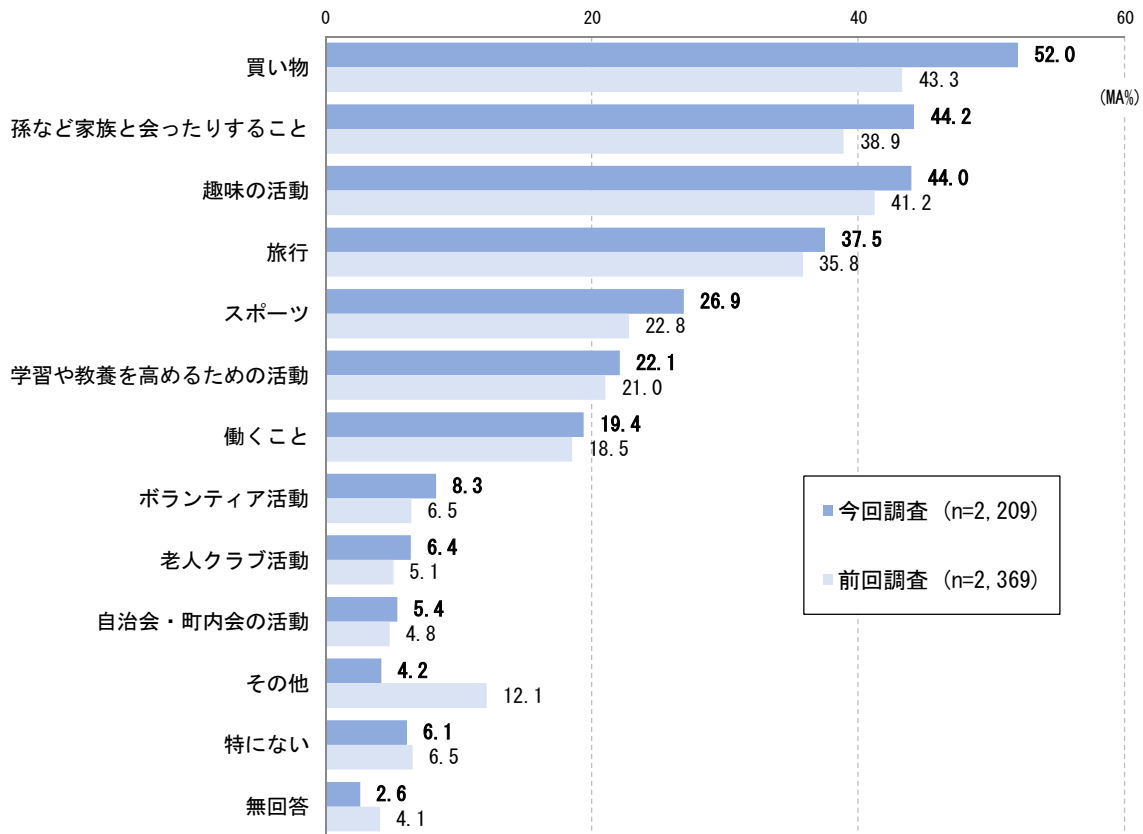


年齢別にみると、週1回以下の割合が、85歳以上で3割台(35.3%)みられる。

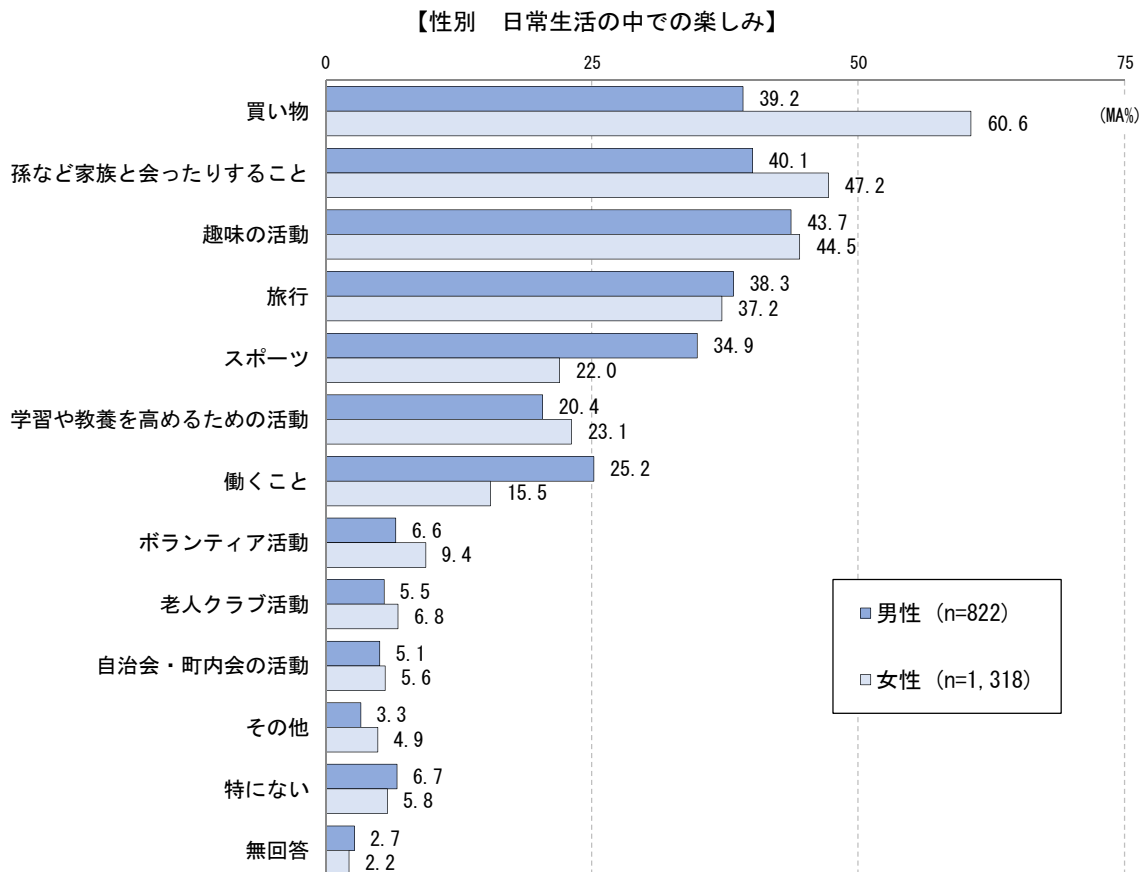


(3) 日常生活の中での楽しみ

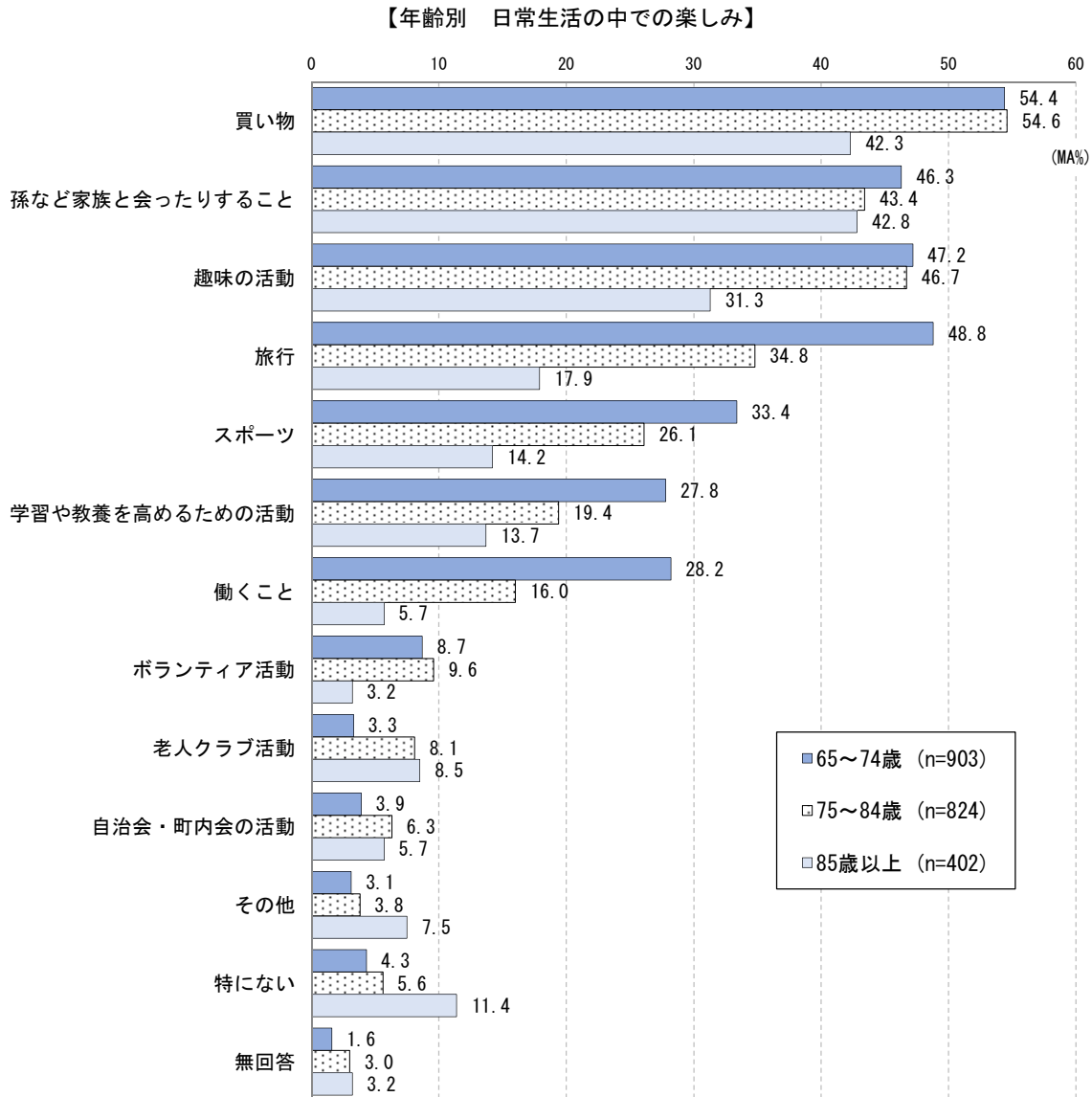
「買い物」が 52.0%と最も多く、次いで「孫など家族と会ったりすること」が 44.2%、「趣味の活動」が 44.0%、「旅行」が 37.5%となっており、いずれも前回調査から増加傾向にある。



性別にみると、男性では「趣味の活動」が 43.7%、女性では「買い物」が 60.6%と、それぞれ最も多くなっている。



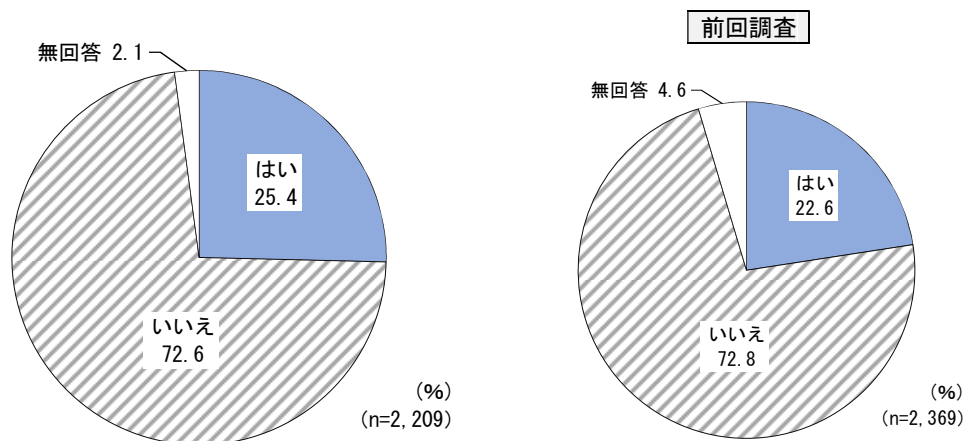
年齢別にみると、「趣味の活動」、「旅行」、「スポーツ」、「学習や教養を高めるための活動」、「働くこと」において、年齢が上がるにしたがって割合が低くなる傾向が顕著にみられる。



(4) 就労状況

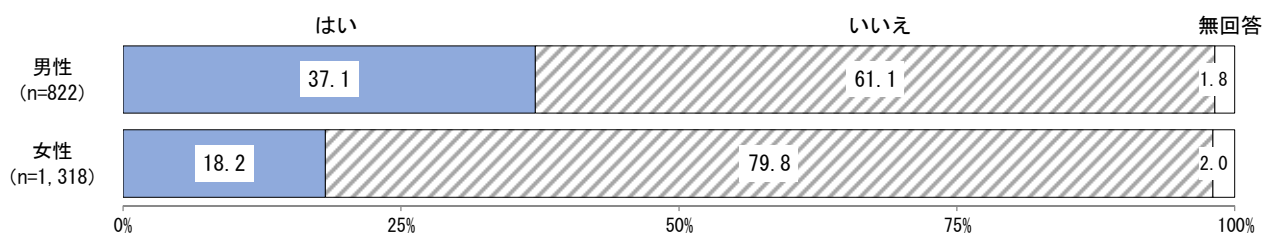
① 就労の有無

現在、就労している人の割合(「はい」)は2割台(25.4%)となっており、前回調査(22.6%)から2.8ポイント増えている。



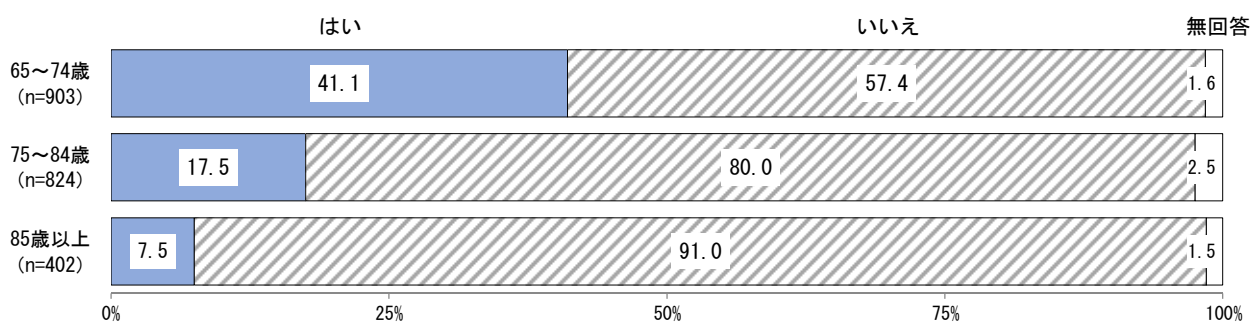
性別にみると、就労している人の割合は、男性で37.1%、女性で18.2%となっている。

【性別 就労の有無】



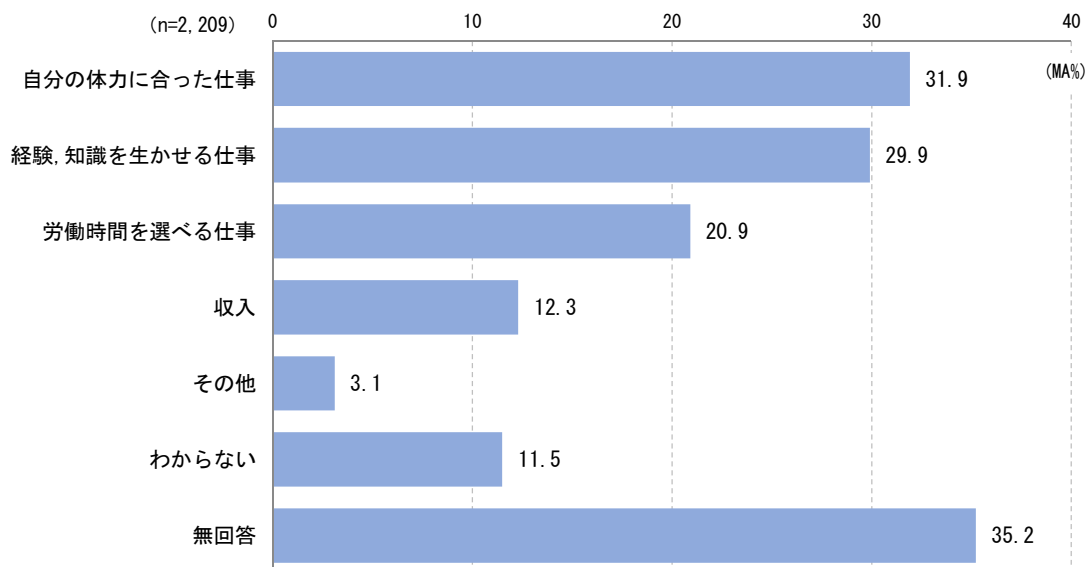
年齢別にみると、就労している人の割合は、65～74歳で4割台(41.1%)に対し、75～84歳では17.5%、85歳以上では7.5%となっている。

【年齢別 就労の有無】



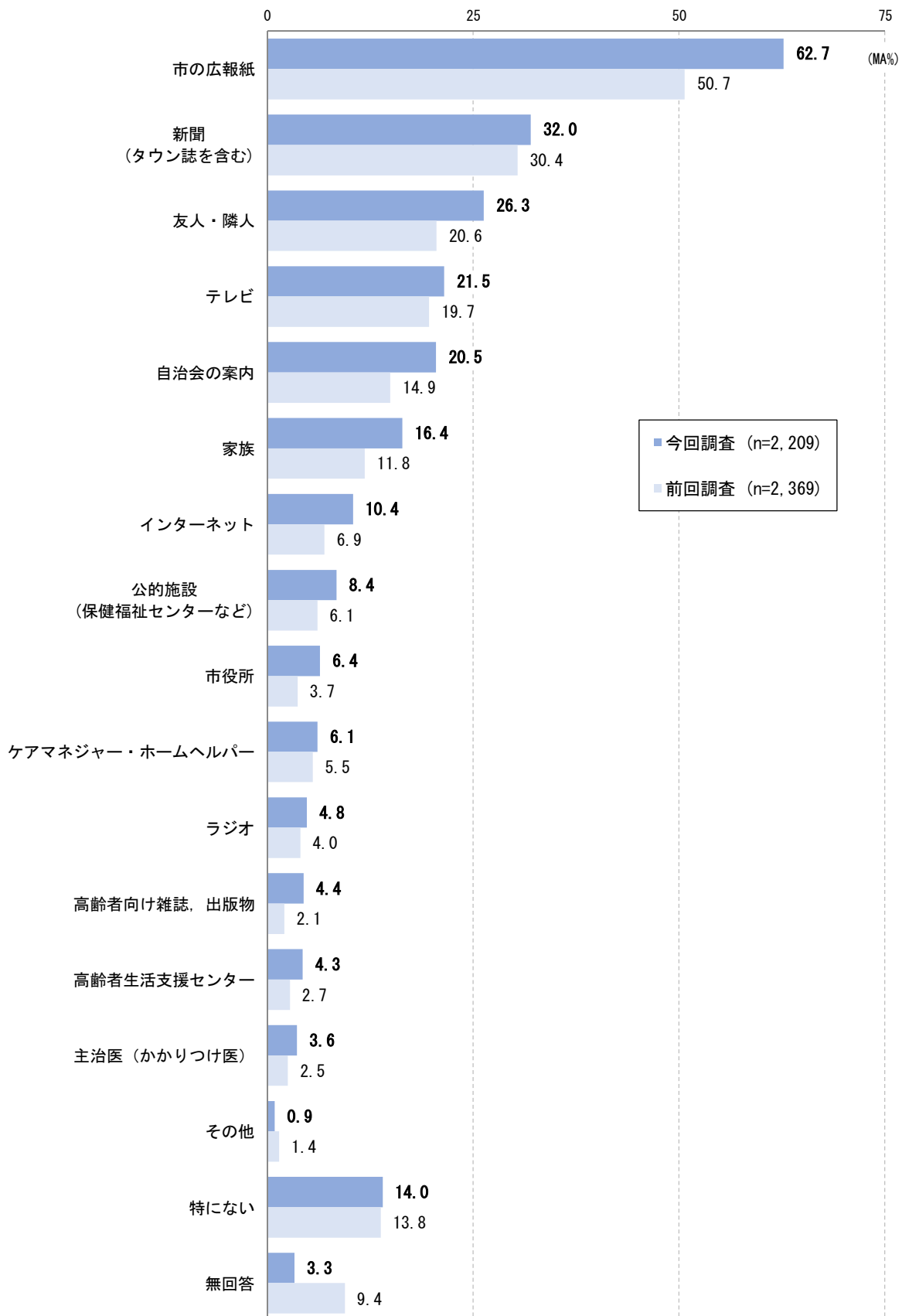
②働き方で重視する条件

「自分の体力に合った仕事」が31.9%、「経験、知識を生かせる仕事」が29.9%と多くなっている。



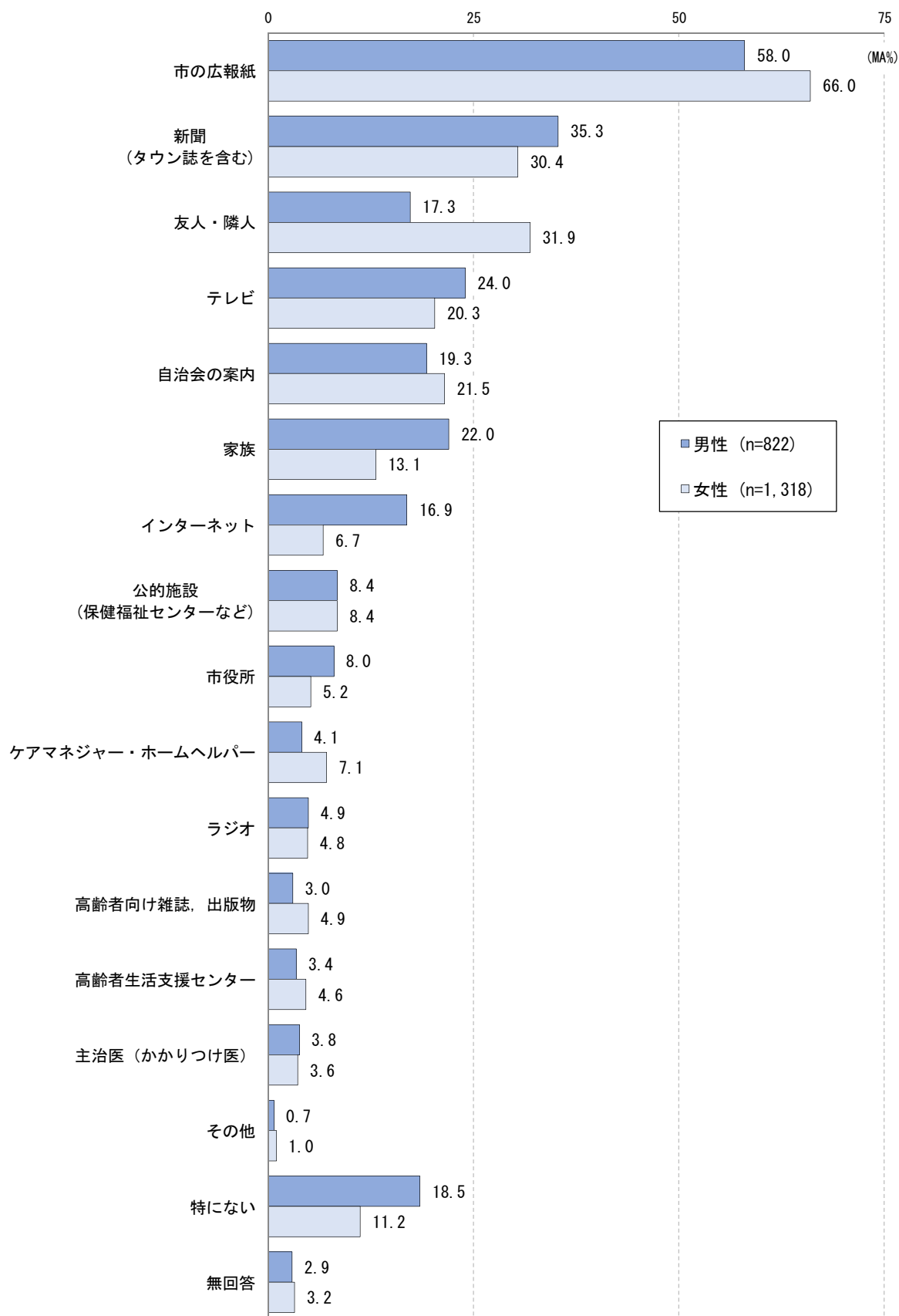
(5) 高齢者向けの催し物やサービス提供に関する情報の入手先

「市の広報紙」が62.7%と最も多く、前回調査(50.7%)から12ポイント増えている。また、これに続くのが、「新聞(タウン誌を含む)」で32.0%、「友人・隣人」で26.3%、「テレビ」で21.5%となっている。一方、「特にない」は1割台(14.0%)みられる。



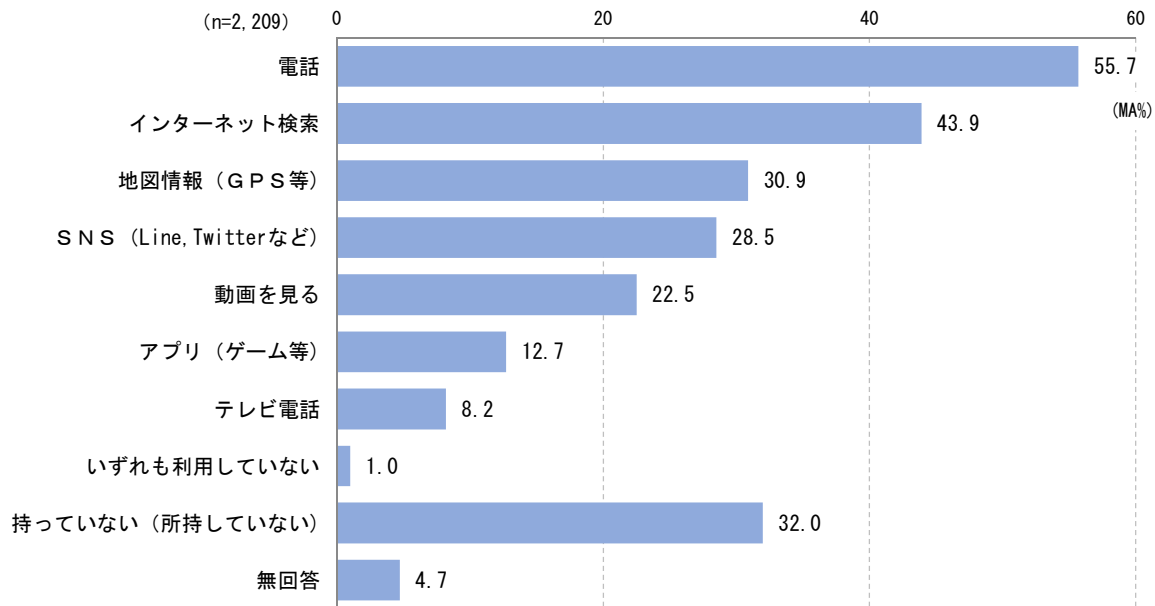
性別にみると、男女ともに「市の広報紙」が最も多く、男性で 58.0%、女性で 66.0%となっている。これに続くのが、男性では「新聞(タウン誌を含む)」で 35.3%、女性では「友人・隣人」で 31.9%となっている。一方、「特にない」は女性で 11.2%に対し、男性では 18.5%と高い。

【性別 高齢者向けの催し物やサービス提供に関する情報の入手先】

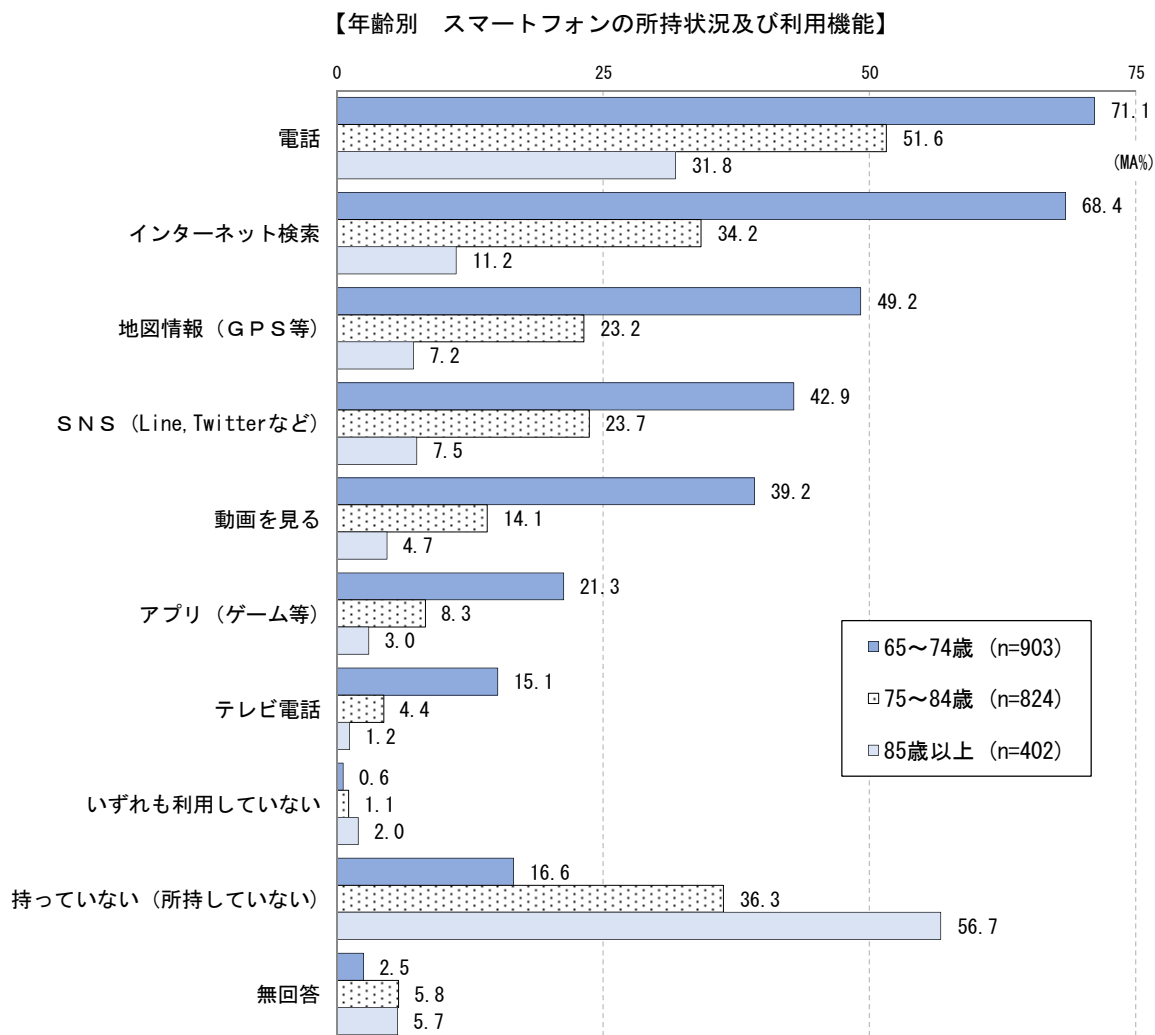


(6) スマートフォンの所持状況及び利用機能

スマートフォンを所持している割合は6割台(63.3%)となっており、具体的に利用している機能としては、「電話」が55.7%と多く、次いで「インターネット検索」が43.9%となっている。



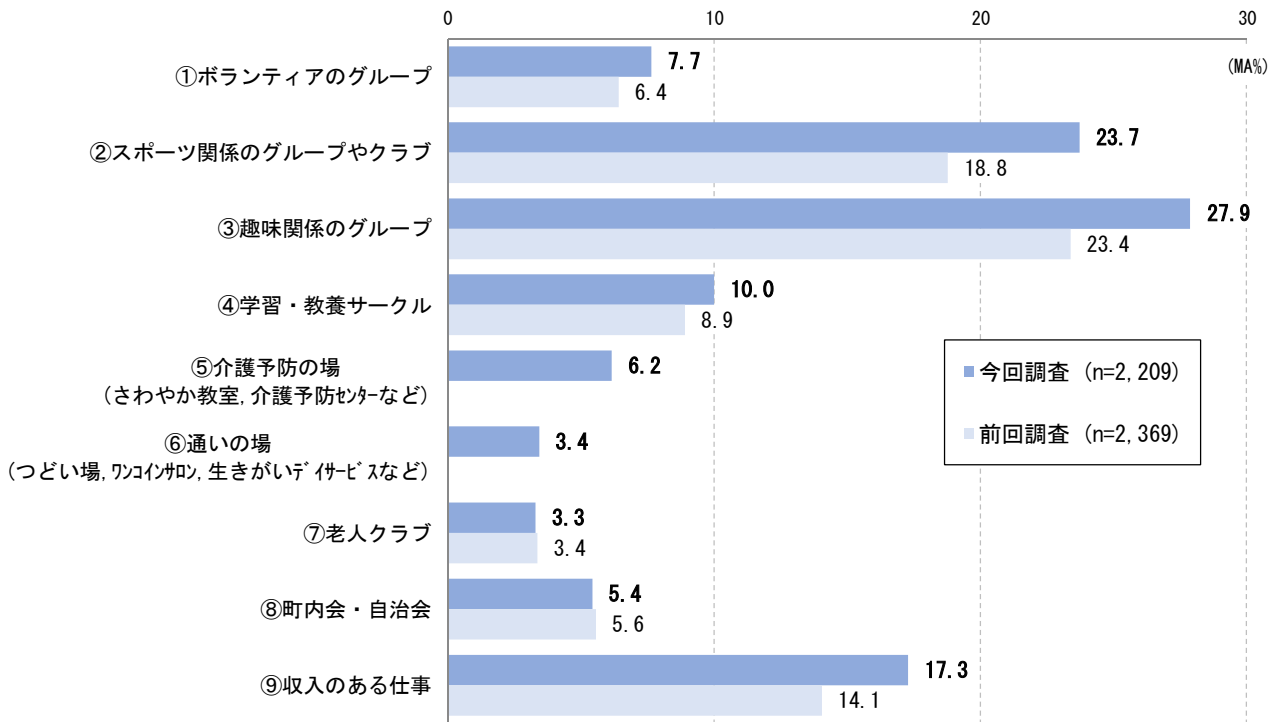
年齢別にみると、スマートフォンを所持している割合は、65～74歳で8割台(80.9%)を占めており、75～84歳では57.9%、85歳以上では37.6%となっている。



(7) 地域での活動状況

①地域の会・グループ等への参加状況（月に1回以上参加している割合）

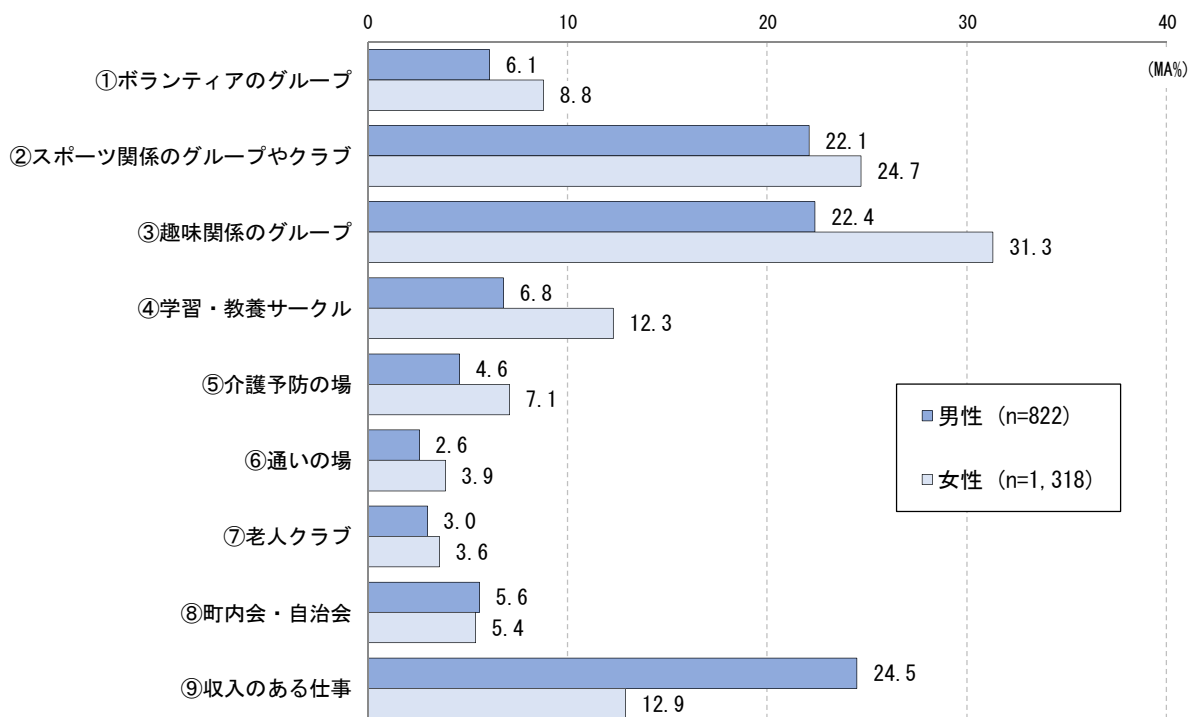
月に1回以上参加している割合としては、『③趣味関係のグループ』が 27.9%、『②スポーツ関係のグループやクラブ』が 23.7%と多くなっており、ともに前回調査から5ポイント前後増えている。



※『⑤介護予防の場』、『⑥通いの場』については、新規項目のため前回調査なし。

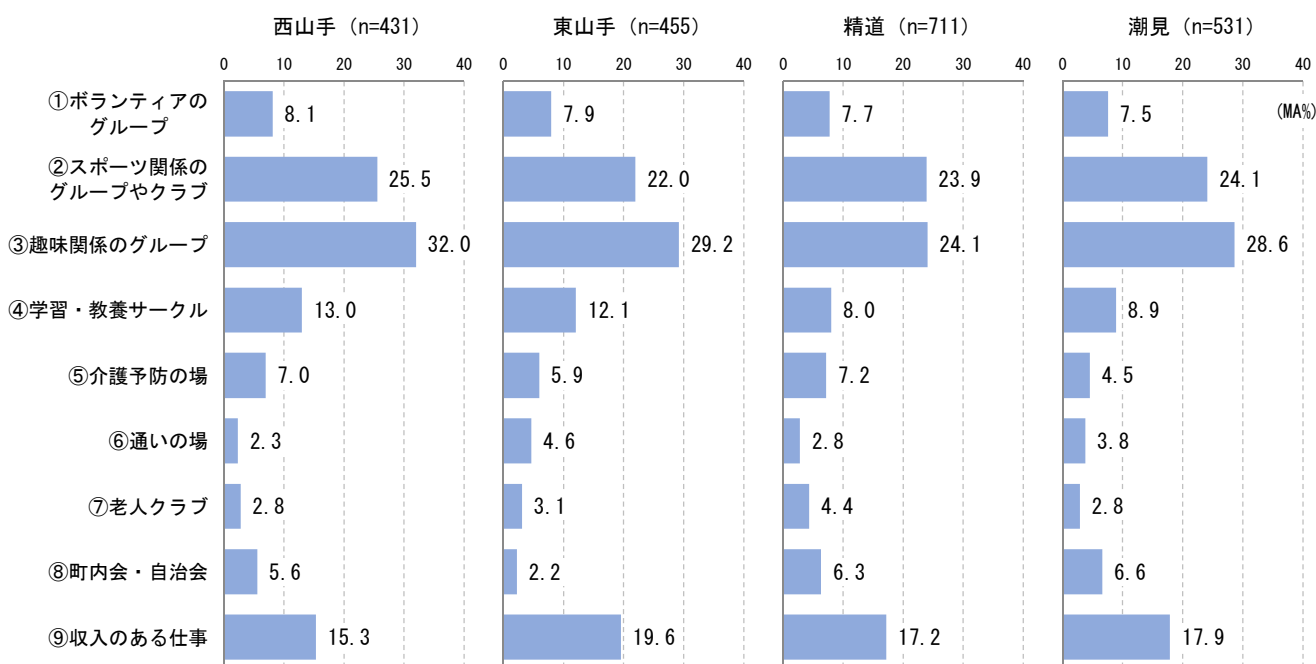
性別にみると、月に1回以上参加している割合は、男性では『⑨収入のある仕事』が 24.5%、女性では『③趣味関係のグループ』が 31.3%と、それぞれ最も多くなっている。また、多くの項目で女性のほうが割合が高い。

【性別 地域の会・グループ等への参加状況（月に1回以上参加している割合）】



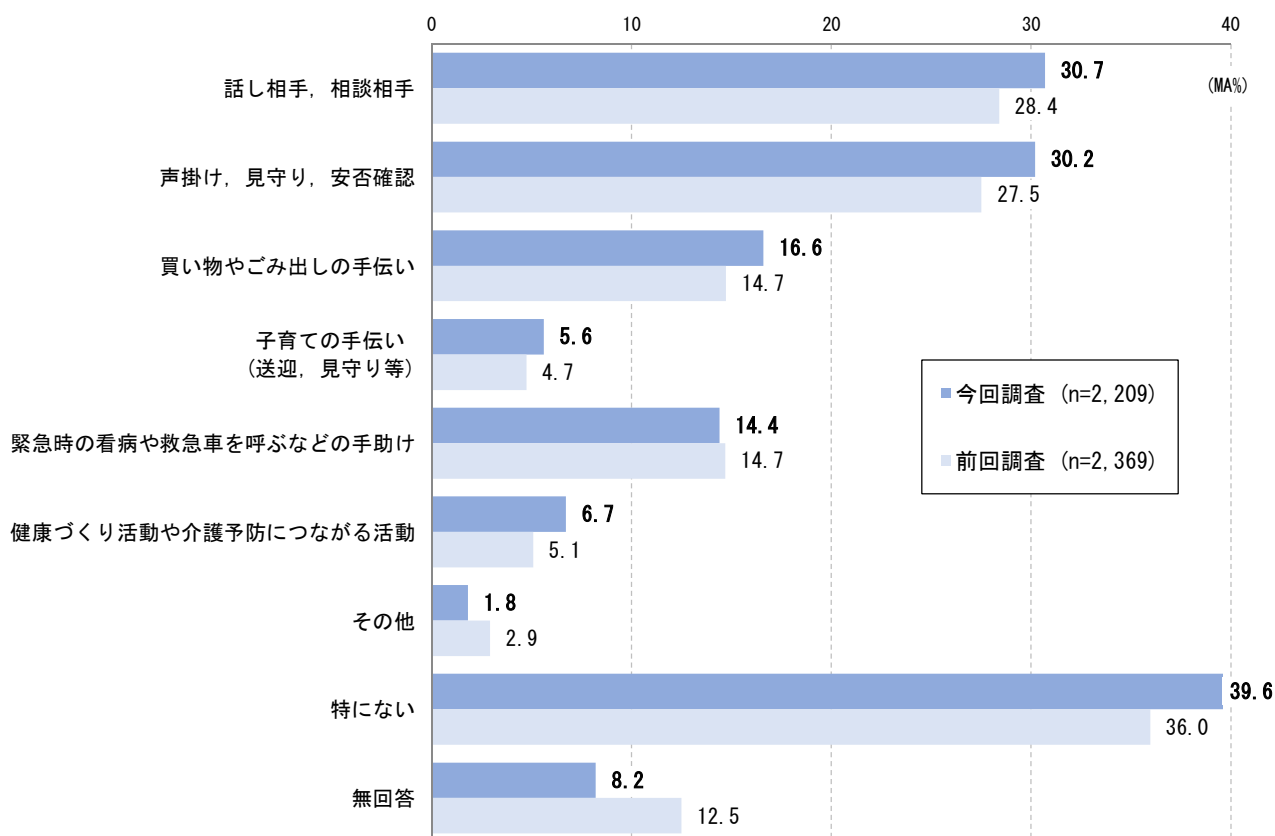
居住地域別にみると、月に1回以上参加している割合は、いずれの地域も『③趣味関係のグループ』で2～3割台と最も多く、次いで『②スポーツ関係のグループやクラブ』で2割台となっており、ともに西山手で最も高くなっている。

【居住地域別 地域の会・グループ等への参加状況（月に1回以上参加している割合）】



②地域の人に対してできる支援

「話し相手、相談相手」が 30.7%、「声掛け、見守り、安否確認」が 30.2%と多くなっている。一方、「特にない」が 39.6%みられ、前回調査(36.0%)から 3.6 ポイント増えている。

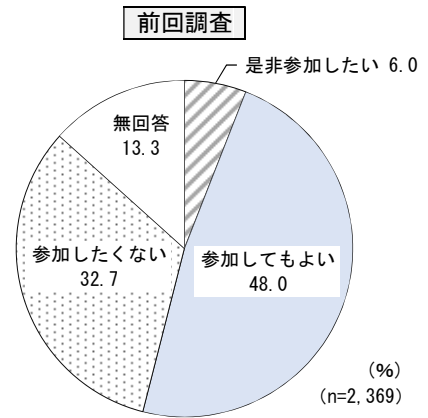
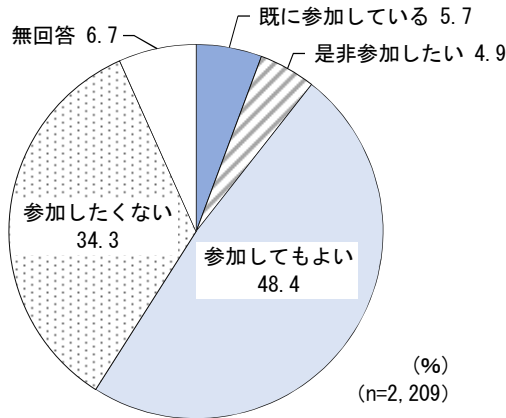


③地域づくりの活動への参加意向

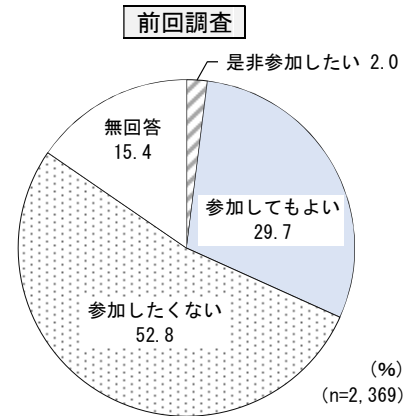
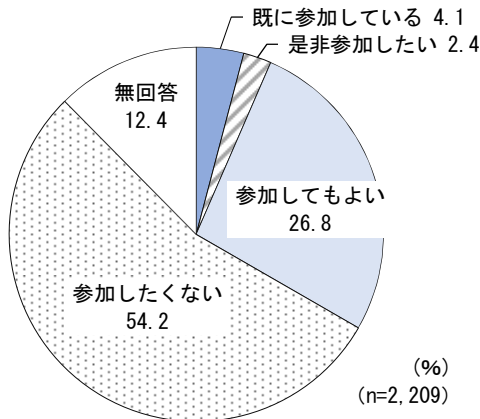
参加者としての参加意向がある割合(「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」の計)が約6割(59.0%)を占めている。一方、企画・運営(お世話役)としては3割台(33.4%)となっている。

※前回調査では「既に参加している」の選択肢なし。

<参加者としての参加>

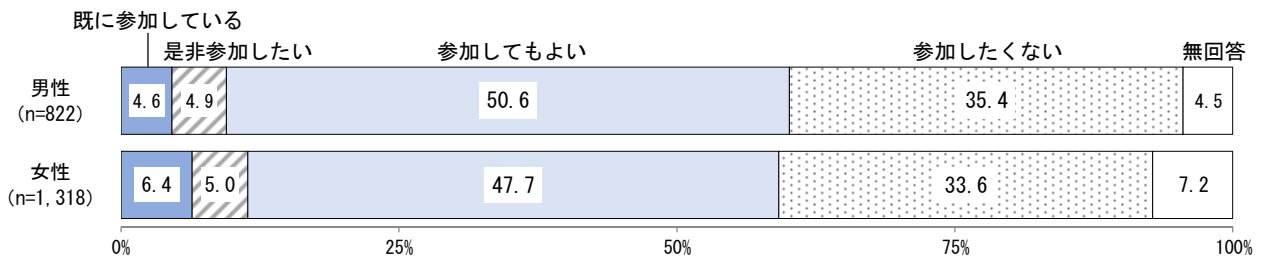


<企画・運営としての参加>

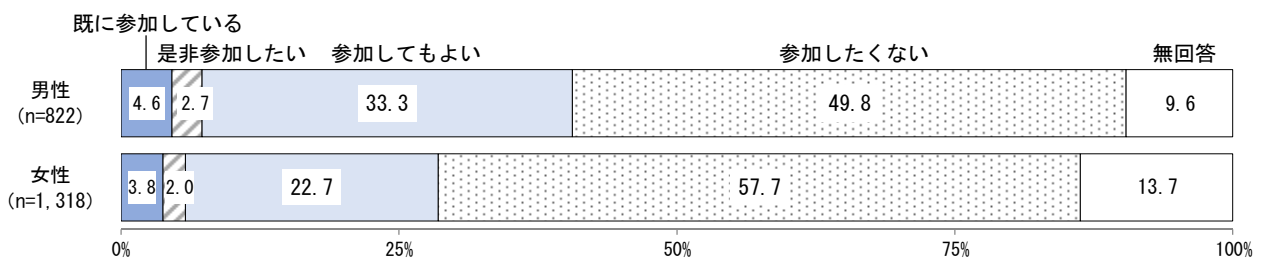


性別にみると、参加者としての参加意向がある割合は、男女ともに約6割みられるのに対し、企画・運営としては、男性で約4割に対し、女性では2割台と低くなっている。

【性別 地域づくりの活動への参加意向 『参加者としての参加』】



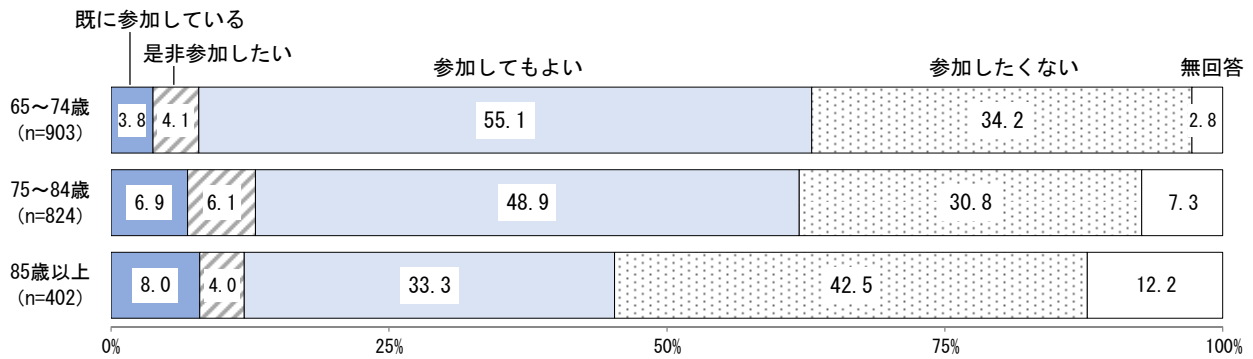
【性別 地域づくりの活動への参加意向 『企画・運営としての参加』】



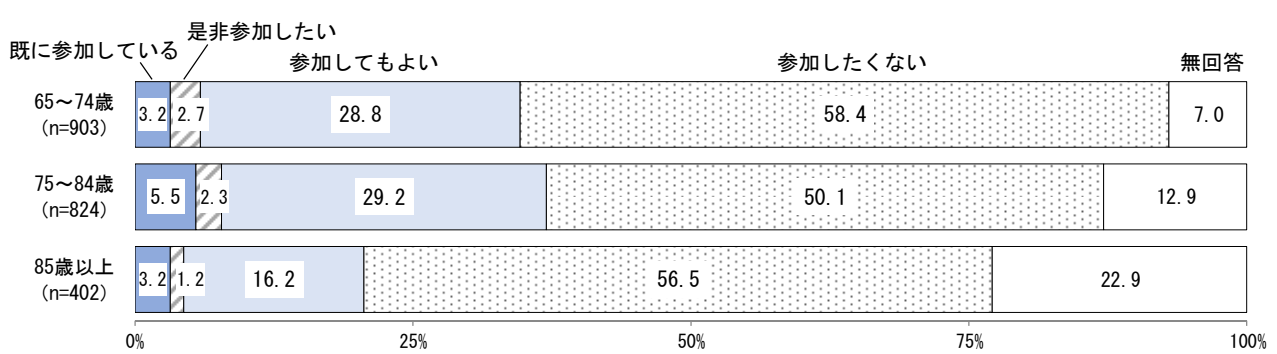
年齢別にみると、参加者としての参加意向がある割合は、65～84歳では6割台を占めるのに対し、85歳以上では4割台となっている。

一方、企画・運営としては、65～84歳で3割台に対し、85歳以上では約2割となっている。

【年齢別 地域づくりの活動への参加意向『参加者としての参加』】

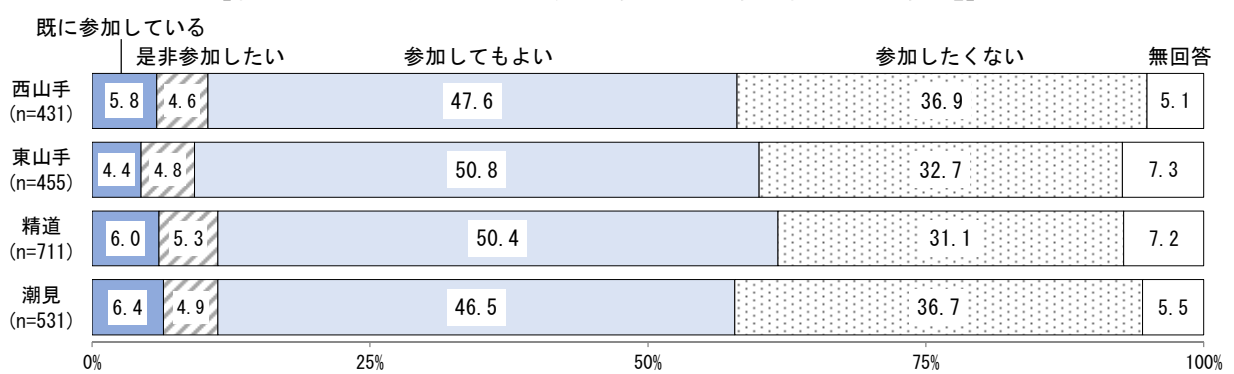


【年齢別 地域づくりの活動への参加意向『企画・運営としての参加』】

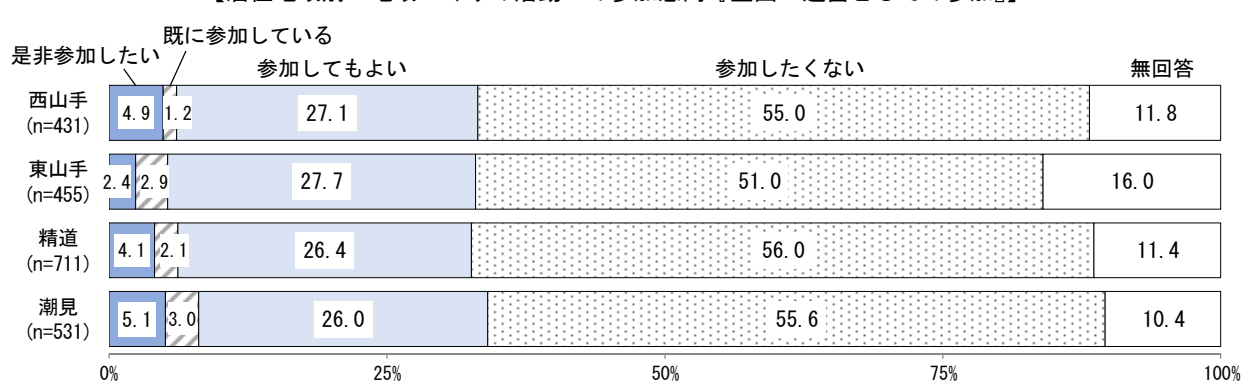


居住地域別にみると、いずれの地域も、参加者としての参加意向がある割合は6割前後に対し、企画・運営としては3割台となっている。

【居住地域別 地域づくりの活動への参加意向『参加者としての参加』】

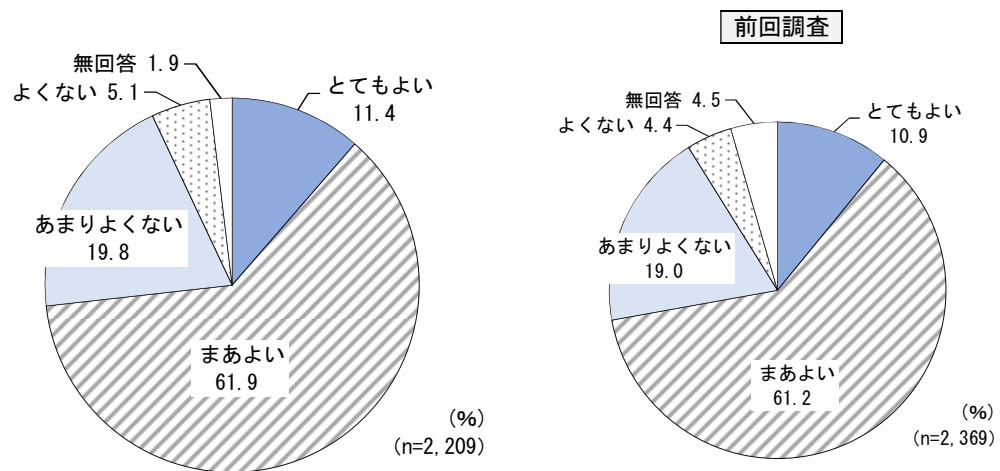


【居住地域別 地域づくりの活動への参加意向『企画・運営としての参加』】



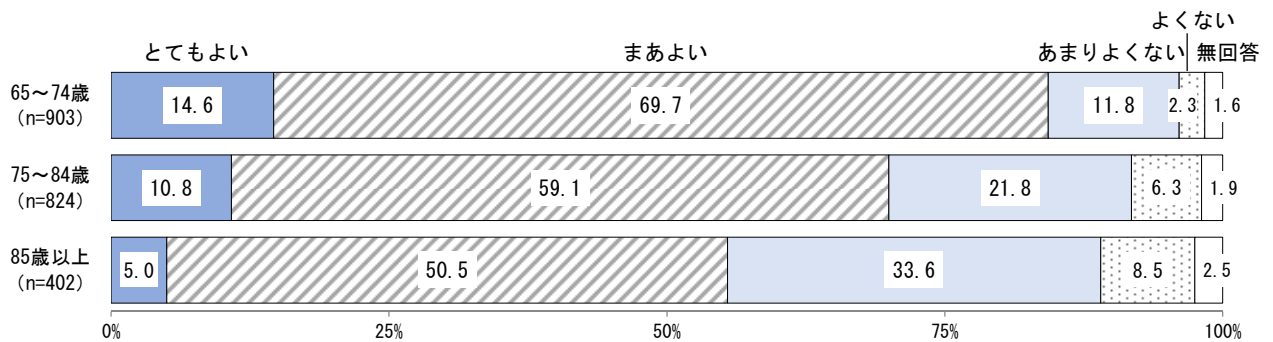
(8) 現在の健康状態

健康状態はよくないという割合(「あまりよくない」「よくない」の計)は2割台(24.9%)となっており、前回調査(23.4%)から1.5ポイント増えている。



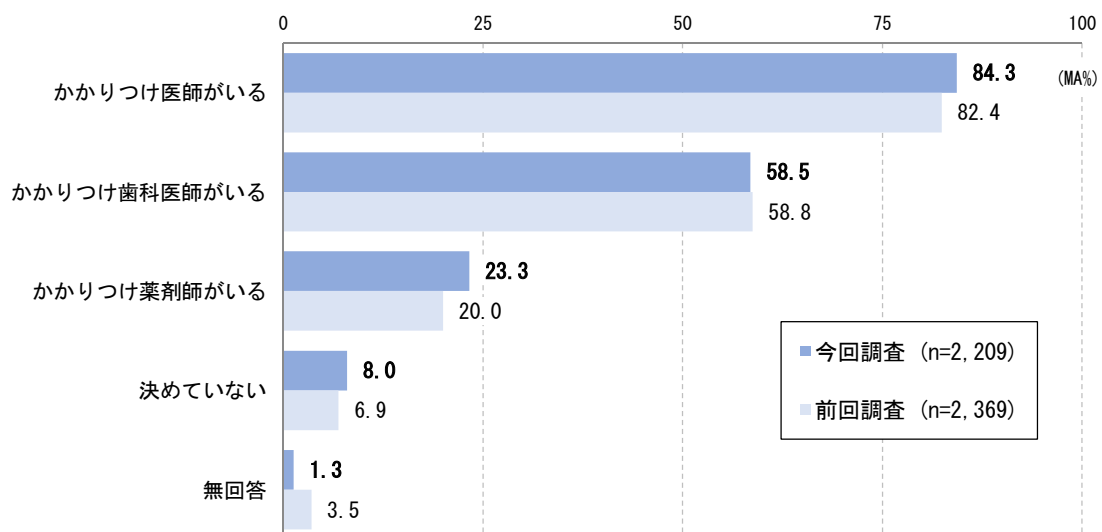
年齢別にみると、健康状態はよくないという割合(「あまりよくない」「よくない」の計)が、65~74歳で14.2%、75~84歳で28.2%、85歳以上で42.0%となっている。

【年齢別 現在の健康状態】



(9) かかりつけ医等の状況

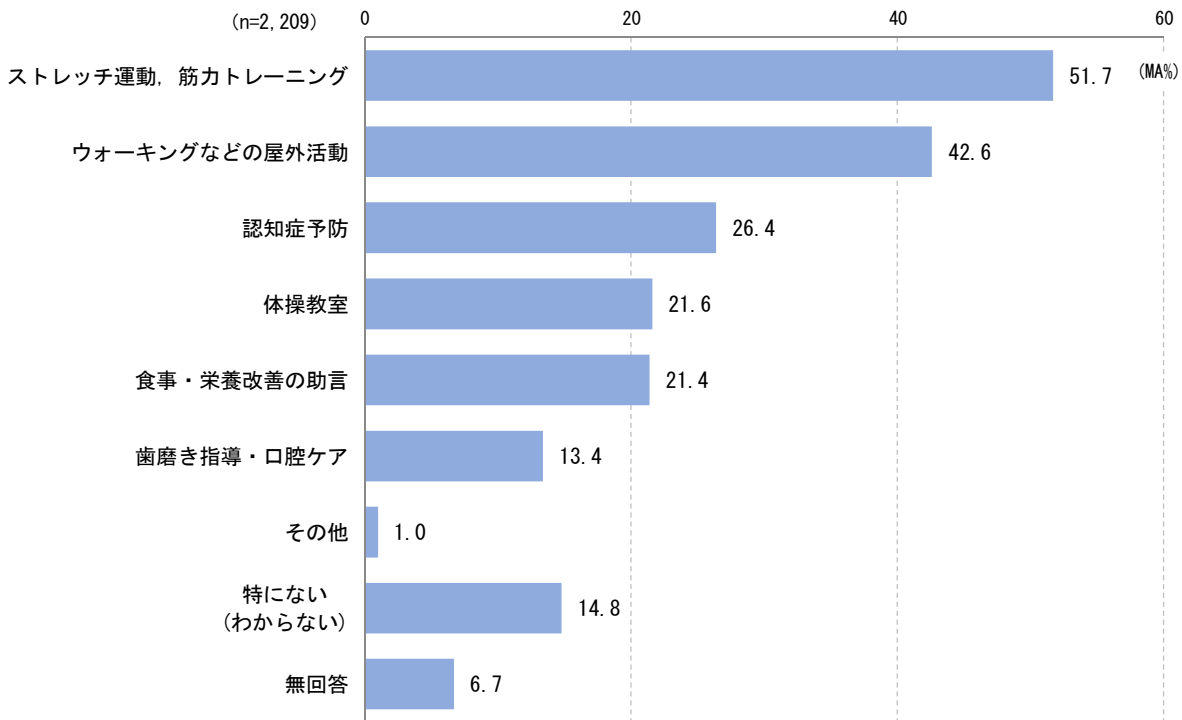
「かかりつけ医師がいる」が84.3%、「かかりつけ歯科医師がいる」が58.5%、「かかりつけ薬剤師がいる」が23.3%となっており、前回調査と同程度となっている。



(10) 介護予防のための取組に対する希望

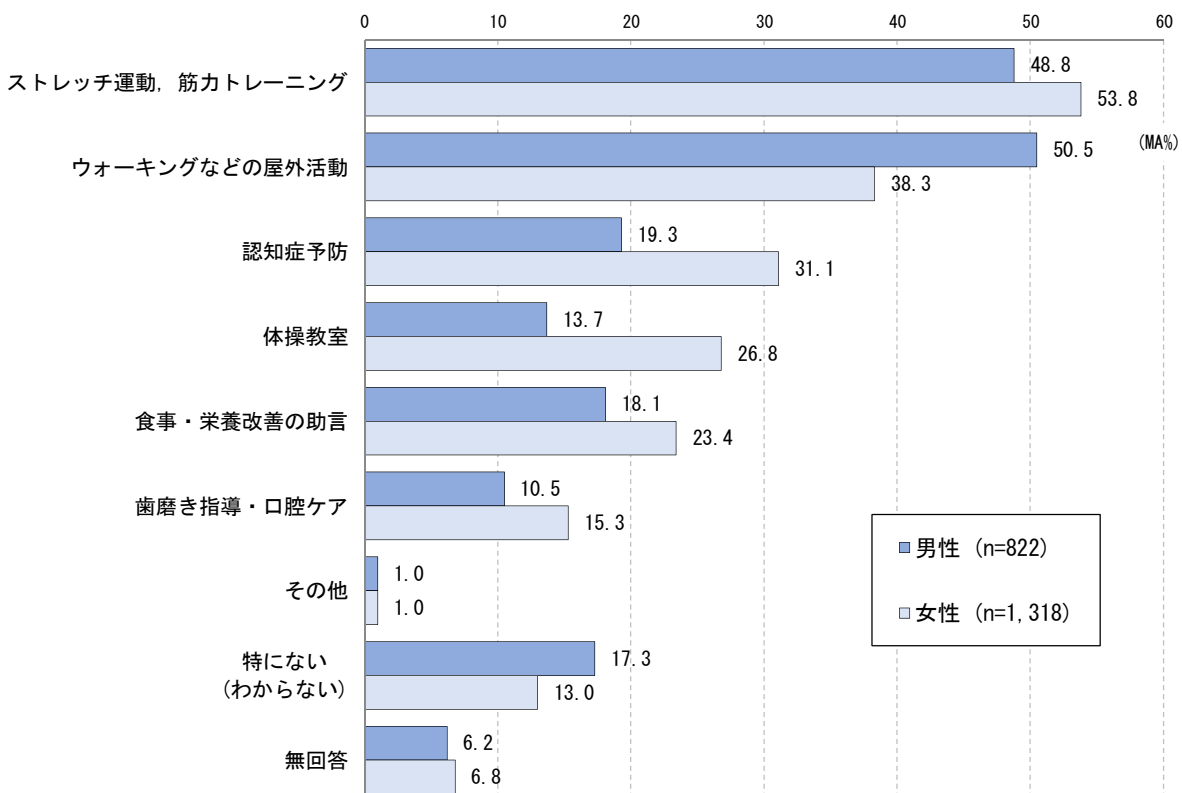
①介護予防のために取り組みたいメニュー

「ストレッチ運動, 筋力トレーニング」が 51.7%と最も多く, 次いで「ウォーキングなどの屋外運動」が 42.6%, 「認知症予防」が 26.4%となっている。

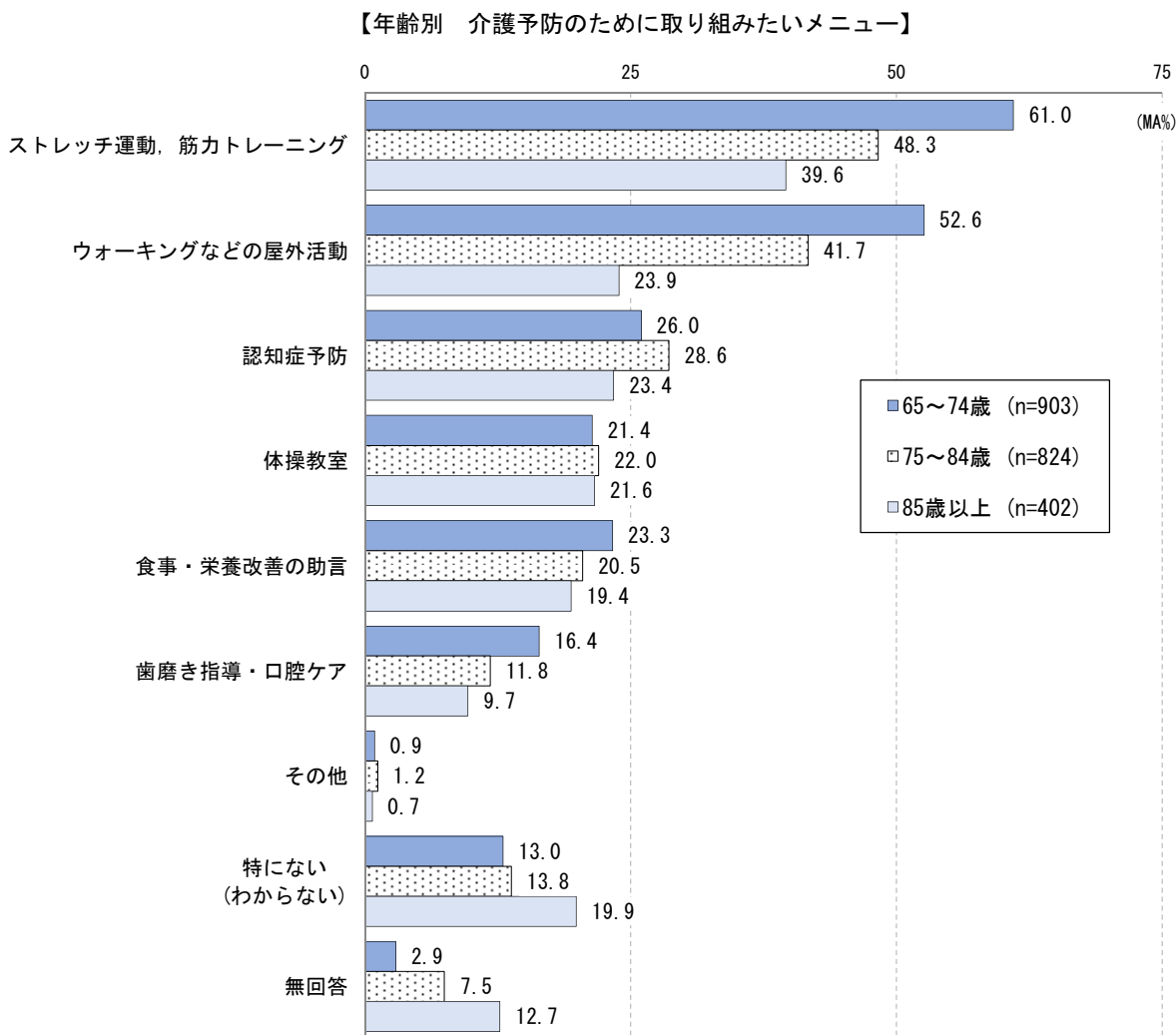


性別にみると, 男性では「ウォーキングなどの屋外運動」が 50.5%, 女性では「ストレッチ運動, 筋力トレーニング」が 53.8%と, それぞれ最も多くなっている。

【性別 介護予防のために取り組みたいメニュー】

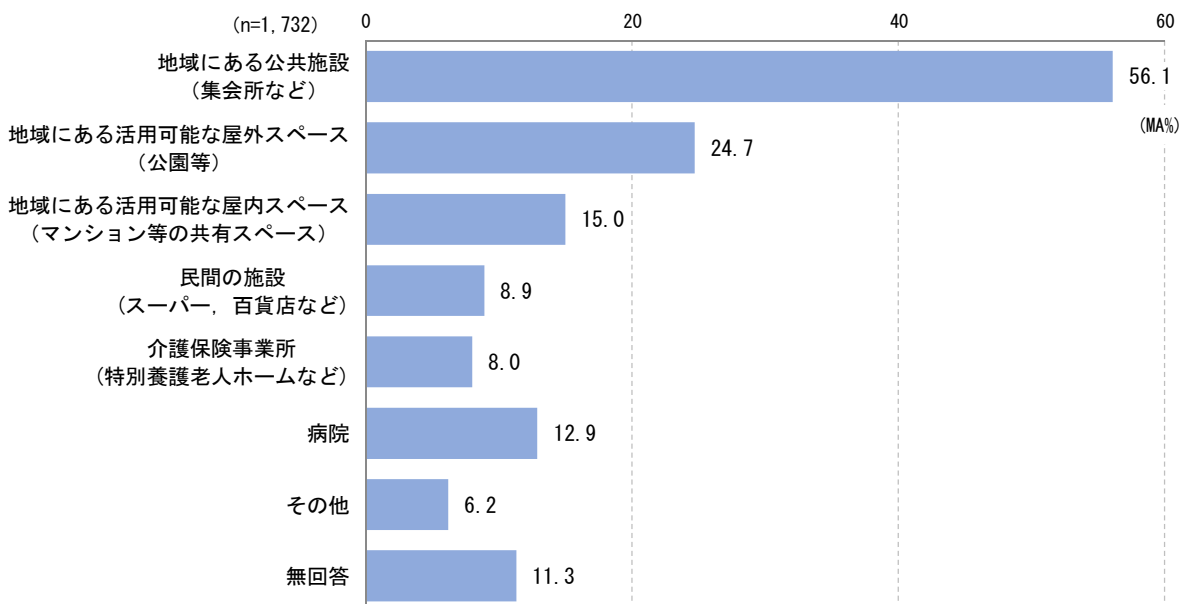


年齢別にみても、いずれの年齢層も「ストレッチ運動、筋力トレーニング」が最も多く、次いで「ウォーキングなどの屋外運動」となっているものの、年齢が上がるにしたがって割合が低くなる傾向が顕著にみられる。



②介護予防を行うにあたって希望する場所 (※前問でいずれかのメニューを希望した人のみ回答)

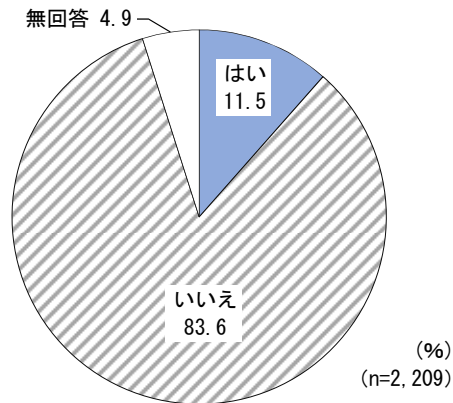
「地域にある公共施設(集会所など)」が5割台(56.1%)と最も多く、次いで「地域にある活用可能な屋外スペース(公園等)」が24.7%となっている。



(11) 認知症に対する認識

① 認知症の有無

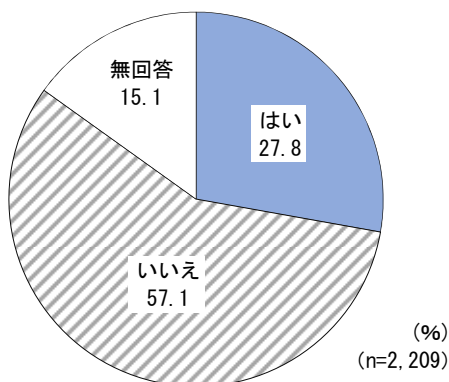
自身や家族の中に認知症の症状があるという割合(「はい」)は、1割台(11.5%)となっている。



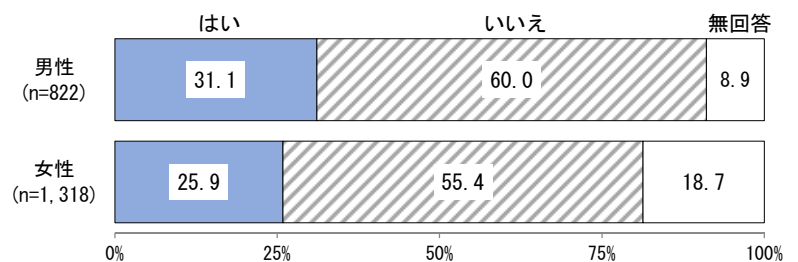
② 認知症を患う不安の有無

自身が認知症を患うと思うという割合(「はい」)は、2割台(27.8%)となっている。

性別にみると、女性で25.9%に対し、男性では31.1%と高くなっている。



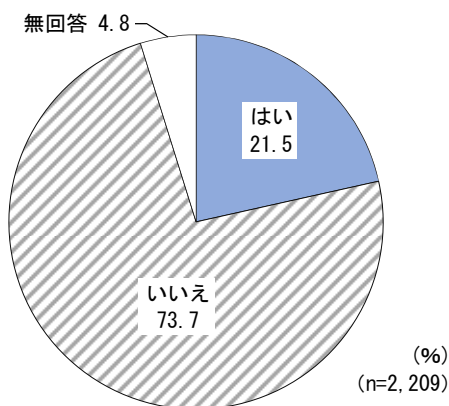
【性別 認知症を患う不安の有無】



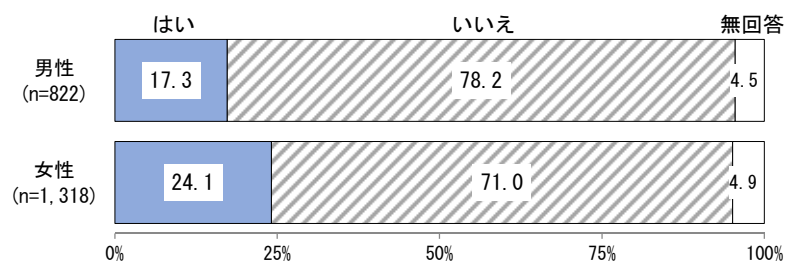
③ 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているという割合(「はい」)は、2割台(21.5%)となっている。

性別にみると、女性で24.1%に対し、男性では17.3%と低くなっている。

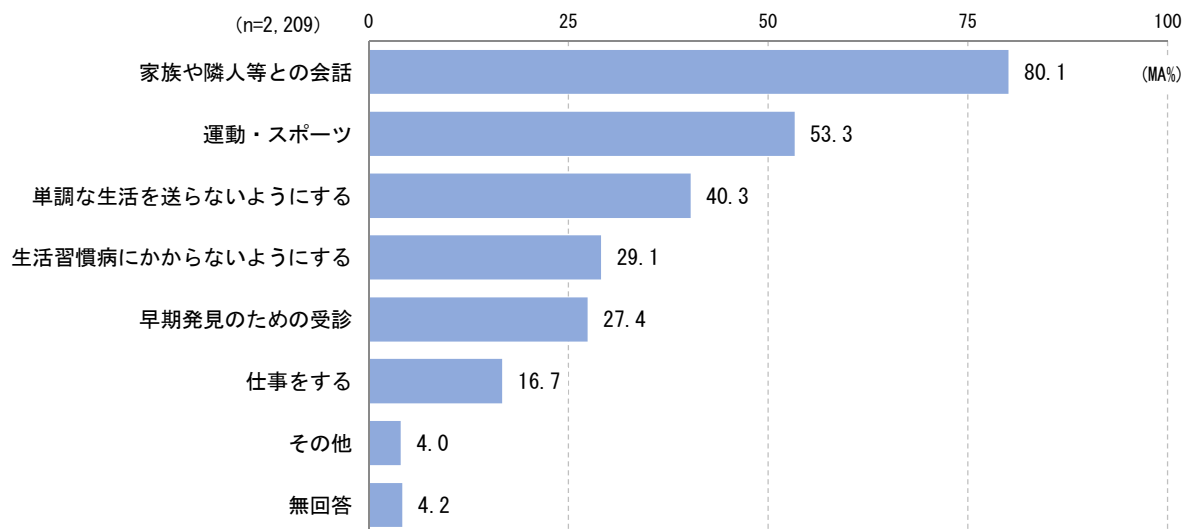


【性別 認知症に関する相談窓口の認知度】



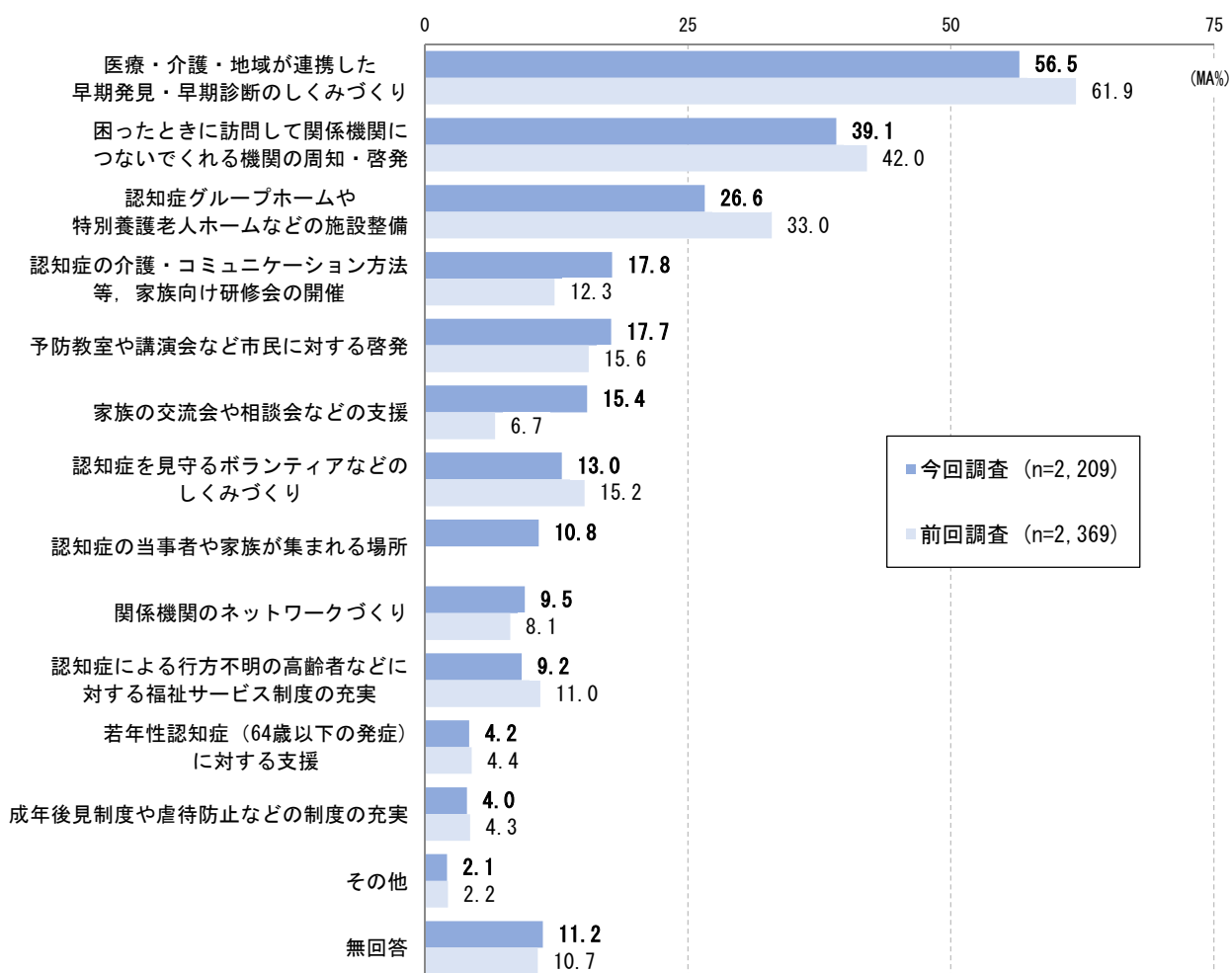
④認知症予防の方法として重要と思うこと

「家族や隣人等との会話」が 80.1%と最も多く、次いで「運動・スポーツ」が 53.3%、「単調な生活を送らないようにする」が 40.3%となっている。



⑤認知症の人への支援で必要と思うこと

「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 56.5%と最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」が 39.1%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が 26.6%となっているものの、いずれも前回調査から5ポイント前後減っている。

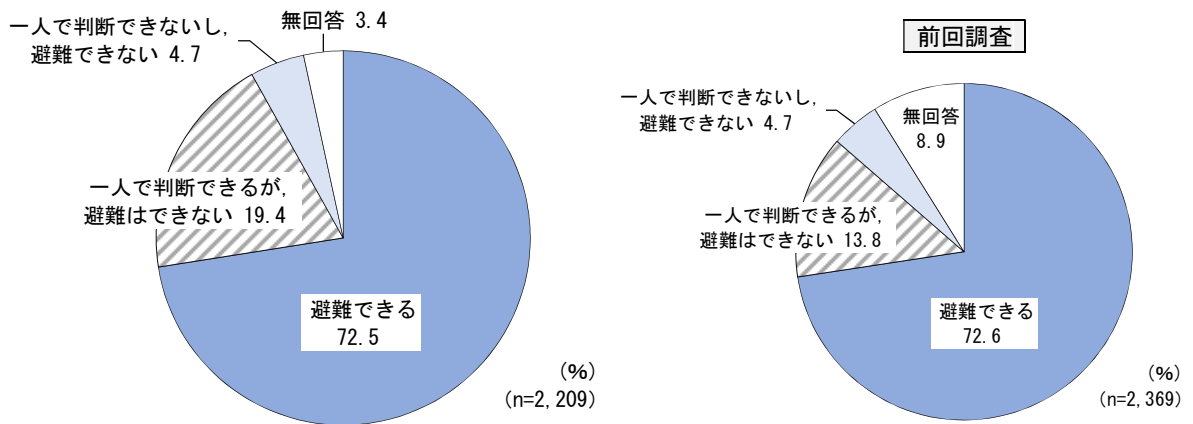


※「認知症の当事者や家族が集まれる場所」は新規項目のため前回調査なし。

(12) 災害時の対応

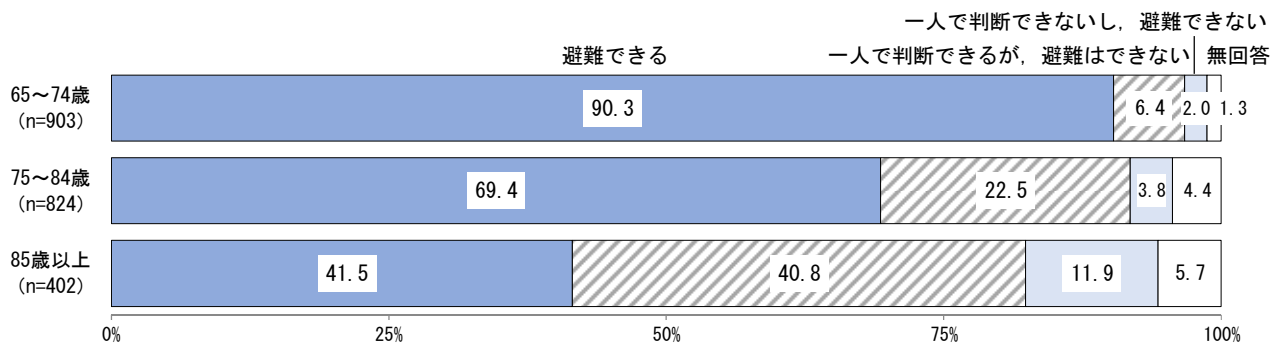
①災害などの緊急時の避難の可否

一人で避難することができない割合(「一人で判断できるが、避難はできない」「一人で判断できないし、避難できない」の計)は2割台(24.1%)みられ、前回調査(18.5%)から5.6ポイント増えている。



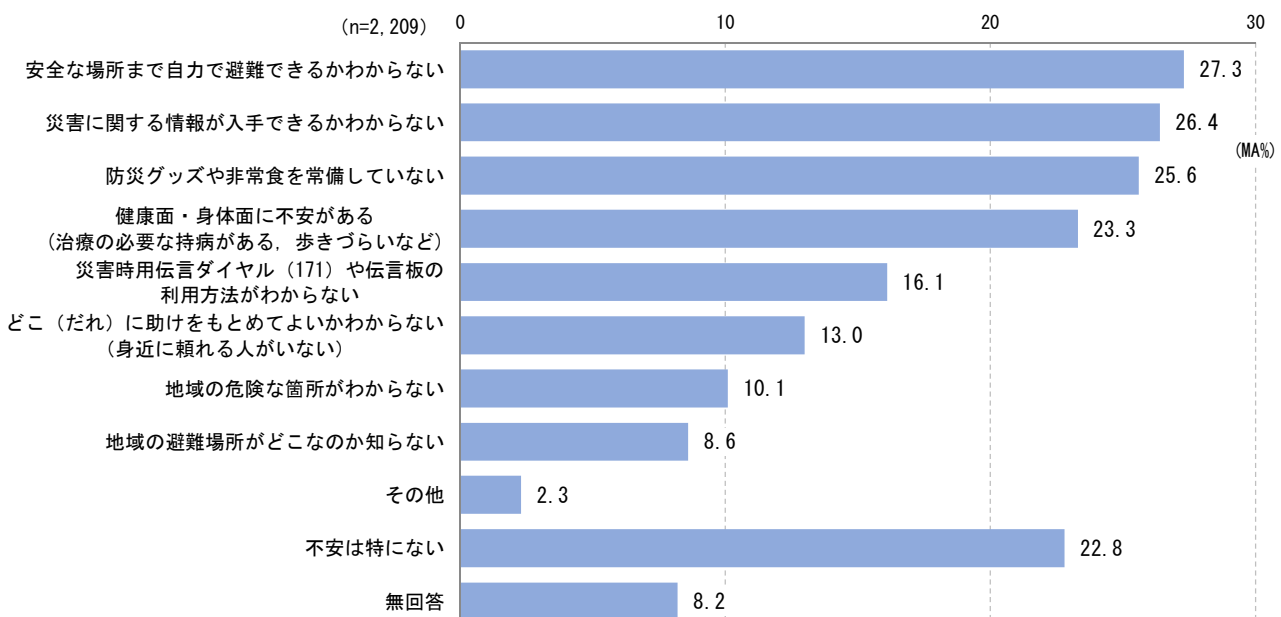
年齢別にみると、「避難できる」が、65～74歳で90.3%、75～84歳で69.4%に対し、85歳以上では41.5%となっている。

【年齢別 災害などの緊急時の避難の可否】



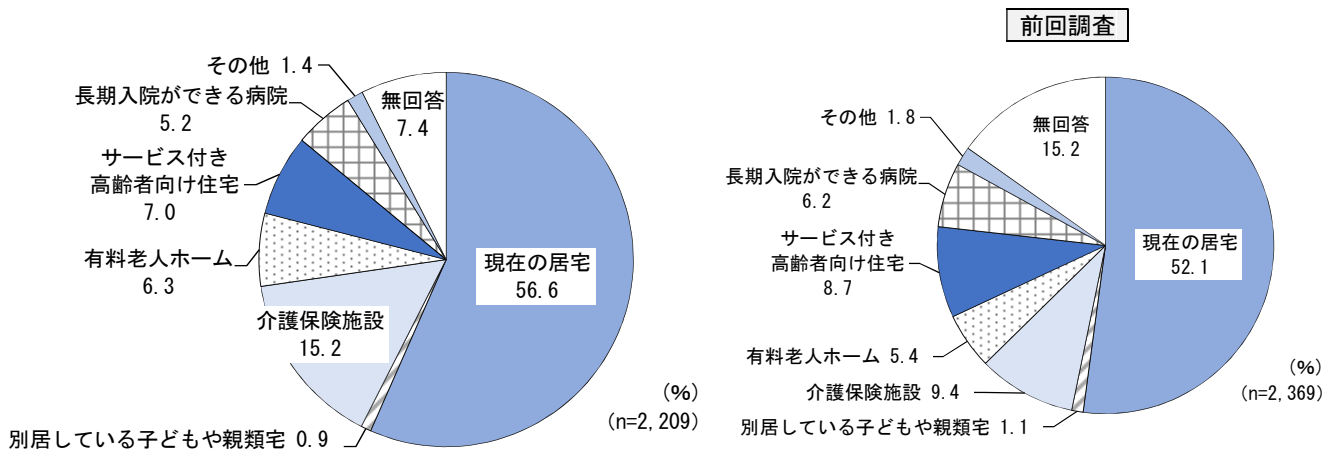
②災害時に対し不安に思うこと

「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が27.3%と最も多く、次いで「災害に関する情報が入手できるかわからない」が26.4%、「防災グッズや非常食を常備していない」が25.6%となっている。



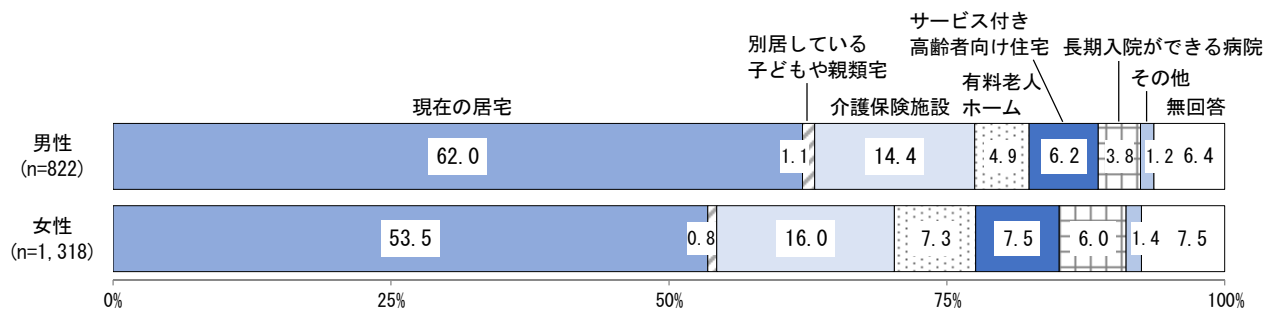
(13) 介護が必要になった場合に希望する住まい

「現在の居宅」が半数以上(56.6%)を占めており、前回調査(52.1%)から 4.5 ポイント増えている。また、これに続くのが、「介護保険施設」で 15.2%となっている。



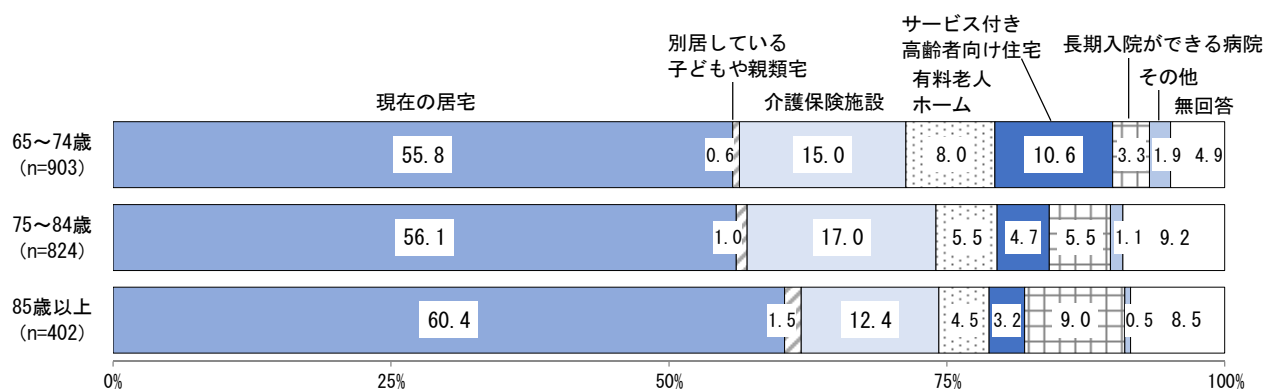
性別にみると、男女ともに「現在の居宅」が半数以上を占めているものの、女性で53.5%に対し、男性では62.0%と差がみられ、施設や病院等への入所・入院を希望する割合は女性のほうが高い。

【性別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



年齢別にみても、いずれの年齢層も「現在の居宅」が半数以上を占めており、85歳以上で60.4%と最も高い。また、「サービス付き高齢者向け住宅」が65~74歳で10.6%、「長期入院ができる病院」が85歳以上で9.0%と、それぞれ他の年齢層に比べて特に高い割合となっている。

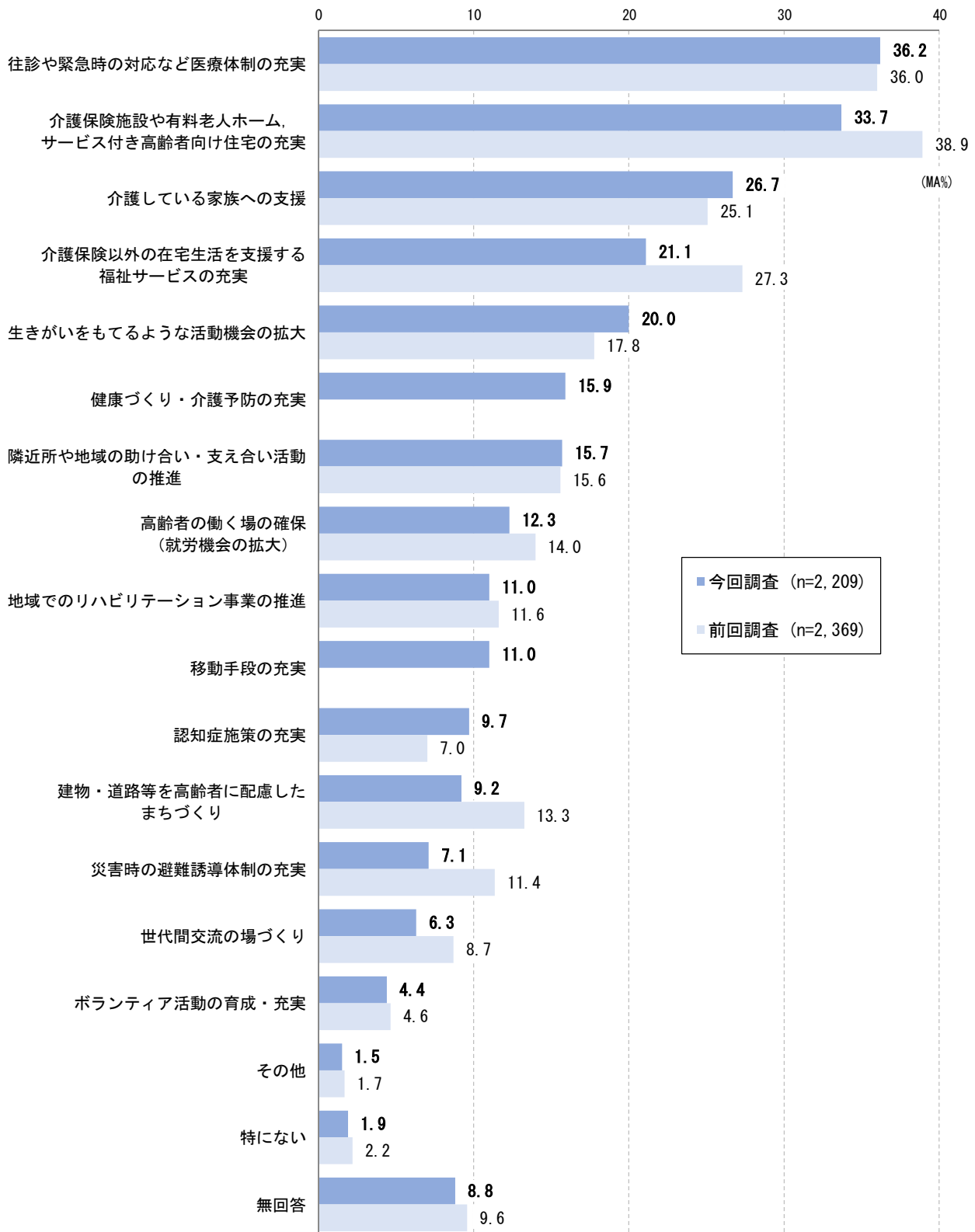
【年齢別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



(14) 高齢者への支援として必要と思うこと

「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が36.2%と最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が33.7%、「介護している家族への支援」が26.7%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が21.1%となっている。

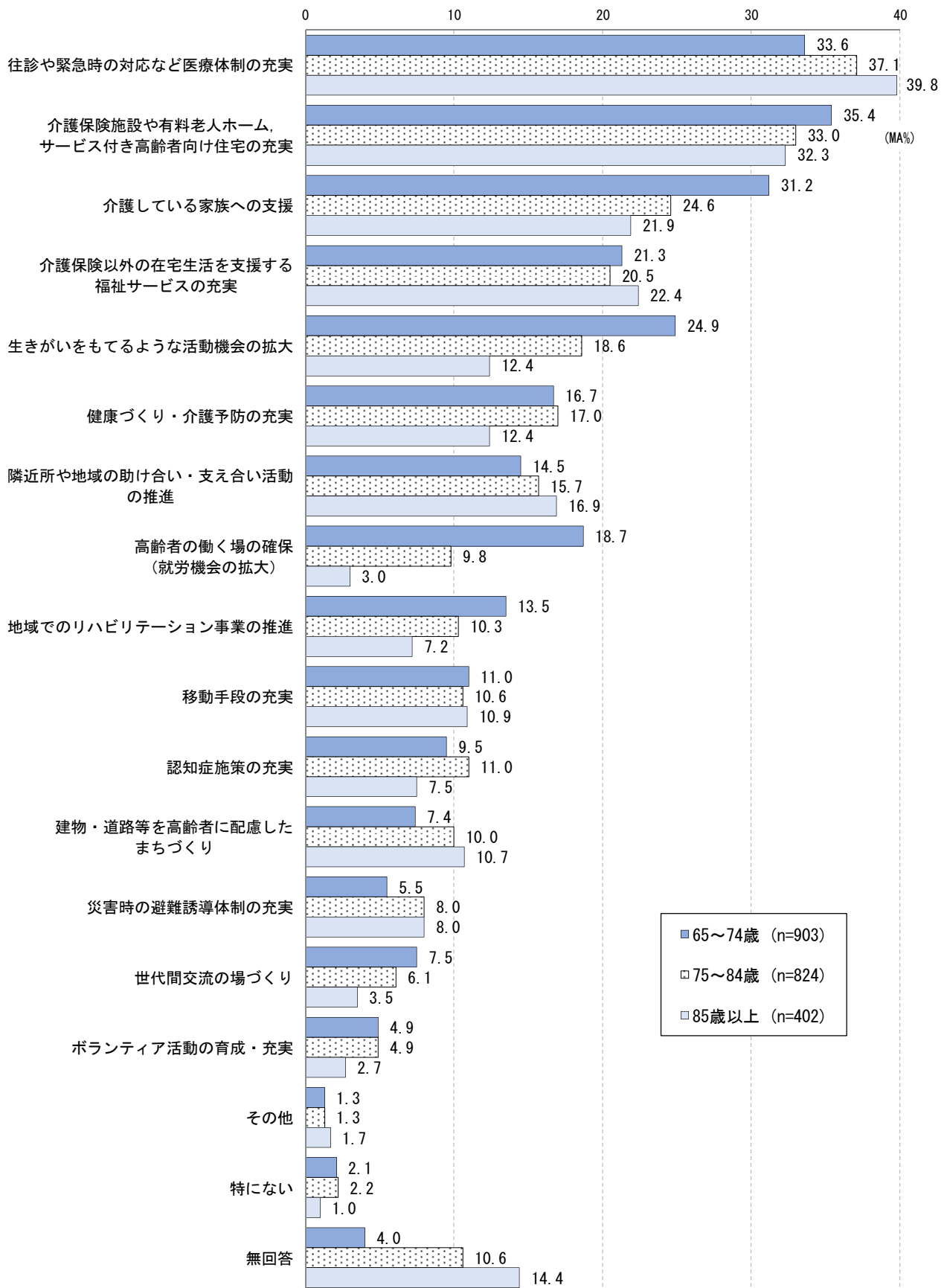
前回調査と比べると、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」(前回27.3%)が6.2ポイント、「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」(前回38.9%)が5.2ポイント、それぞれ減っている。



※「健康づくり・介護予防の充実」、「移動手段の充実」は前回調査なし。

年齢別にみると、いずれの年齢層も「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」または「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が3割台と多くなっている。また、65～74歳において「介護している家族への支援」が31.2%、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が24.9%と、ともに75歳以上に比べて高い割合となっている。

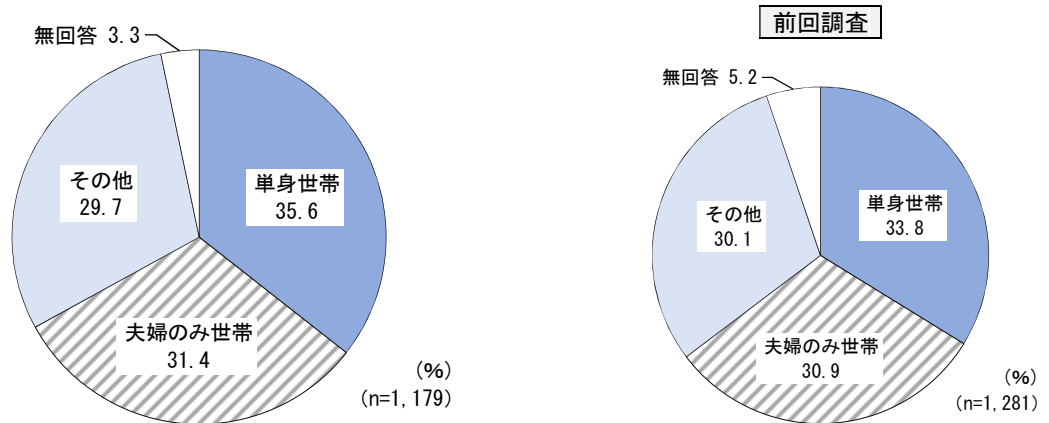
【年齢別 高齢者への支援として必要と思うこと】



調査結果 『在宅介護実態調査』

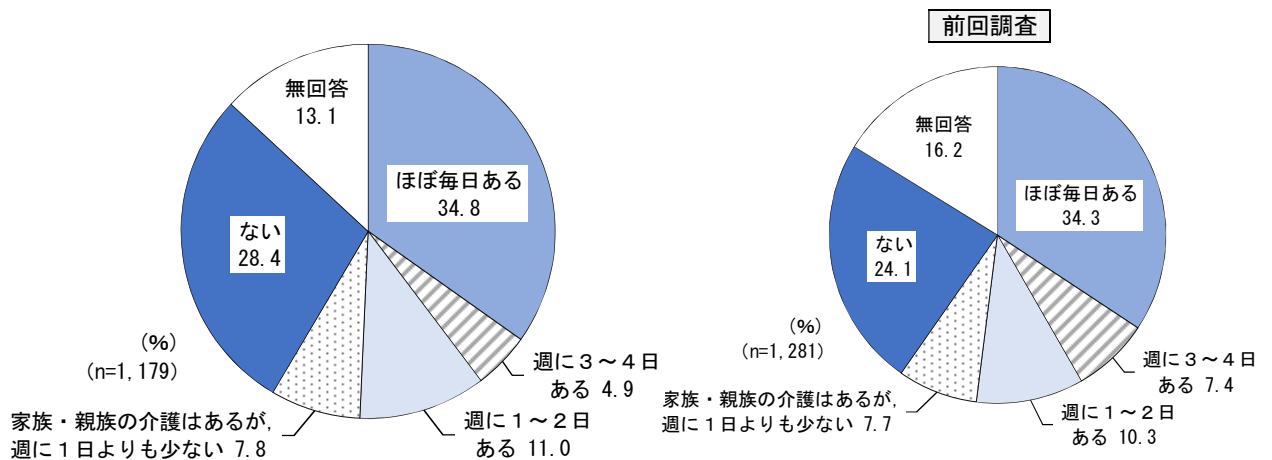
(1) 世帯類型

「単身世帯」が 35.6%と最も多く、前回調査(33.8%)から 1.8 ポイント増えている。また、「夫婦のみ世帯」が 31.4%、「その他」が 29.7%となっている。



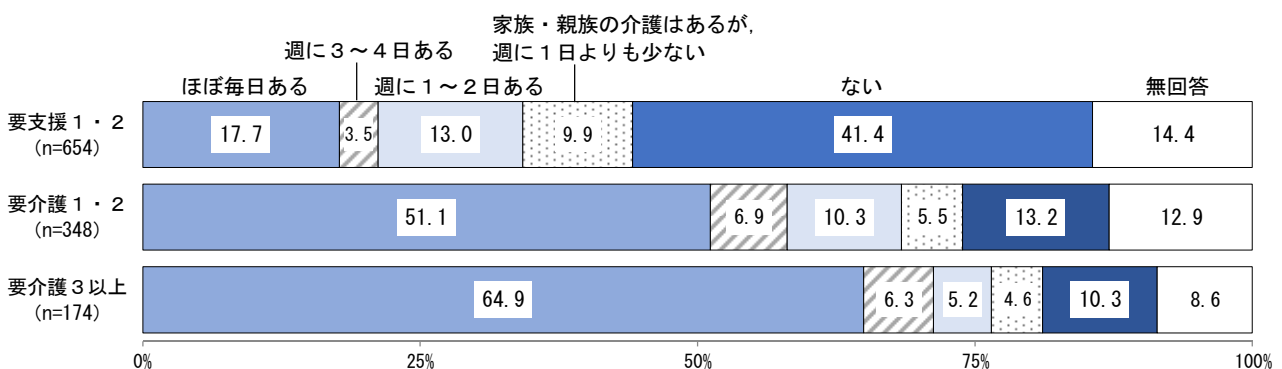
(2) 介護を受ける頻度

家族や親族から介護を受けている割合は6割弱(58.5%)となっており、前回調査(59.7%)から 1.2 ポイント減っている。



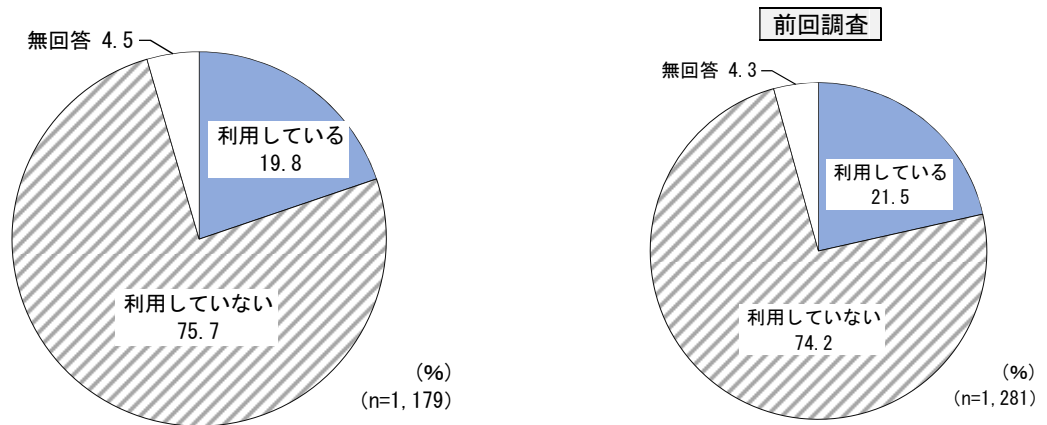
要介護度別にみると、「ほぼ毎日ある」が要支援1・2で 17.7%に対し、要介護者では半数以上を占めており、要介護1・2で 51.1%、要介護3以上で 64.9%となっている。

【要介護度別 介護を受ける頻度】



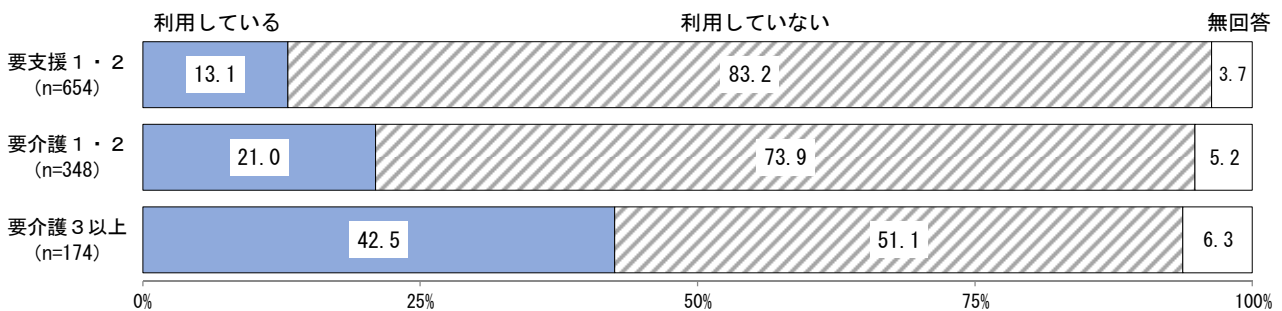
(3) 訪問診療の利用状況

訪問診療を利用している割合は約2割(19.8%)となっており、前回調査(21.5%)から1.7ポイント減っている。



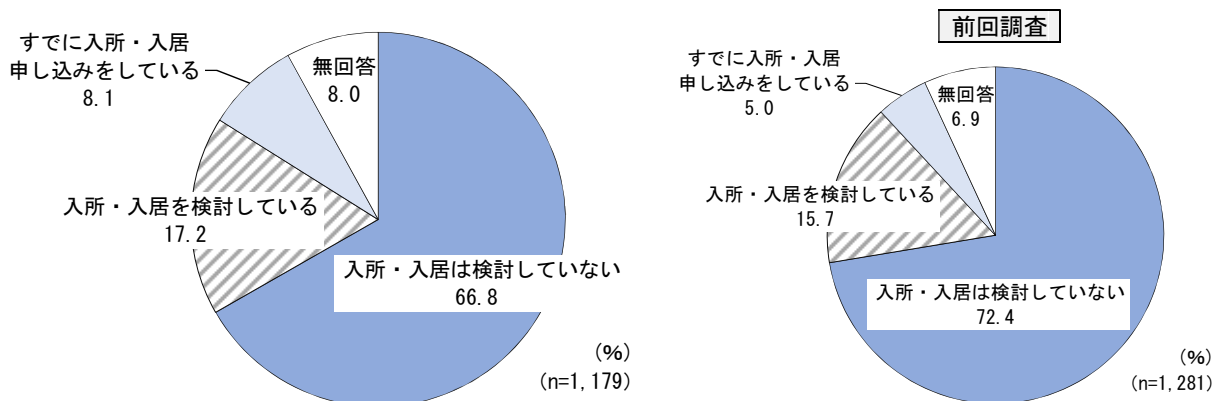
要介護度別にみると、利用している割合が、要支援1・2で13.1%、要支援1・2で21.0%に対し、要介護3以上では4割台(42.5%)を占めている。

【要介護度別 訪問診療の利用状況】



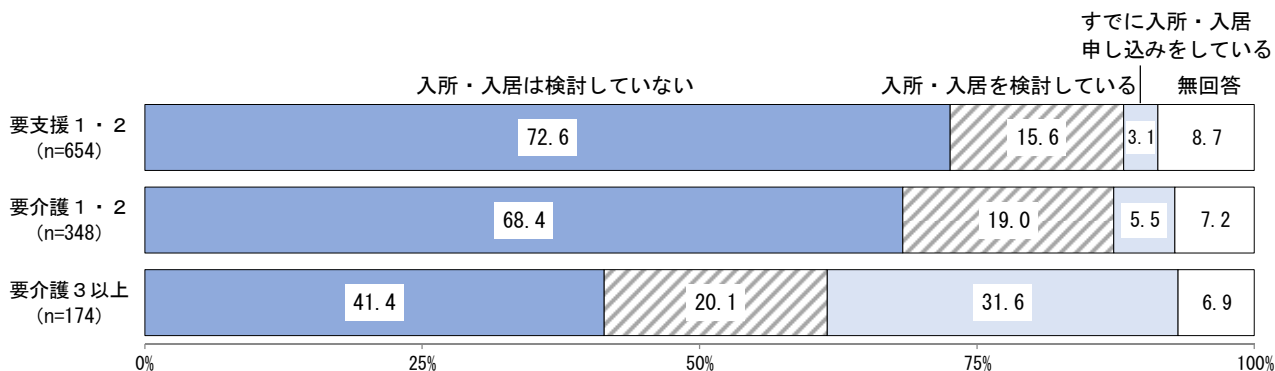
(4) 施設等への入所・入居の検討状況

入所・入居意向がある割合(「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」の計)は2割台(25.3%)となっており、前回調査(20.7%)から4.6ポイント増えている。



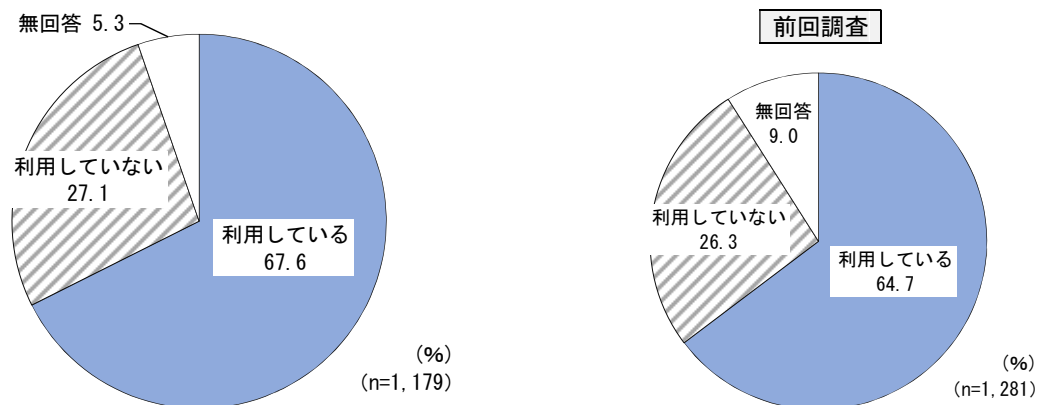
要介護度別にみると、入所・入居意向がある割合が、要支援1・2で18.7%、要介護1・2で24.4%に対し、要介護3以上では半数以上(51.7%)を占めており、「すでに入所・入居申し込みをしている」が31.6%と高い。

【要介護度別 施設等への入所・入居の検討状況】



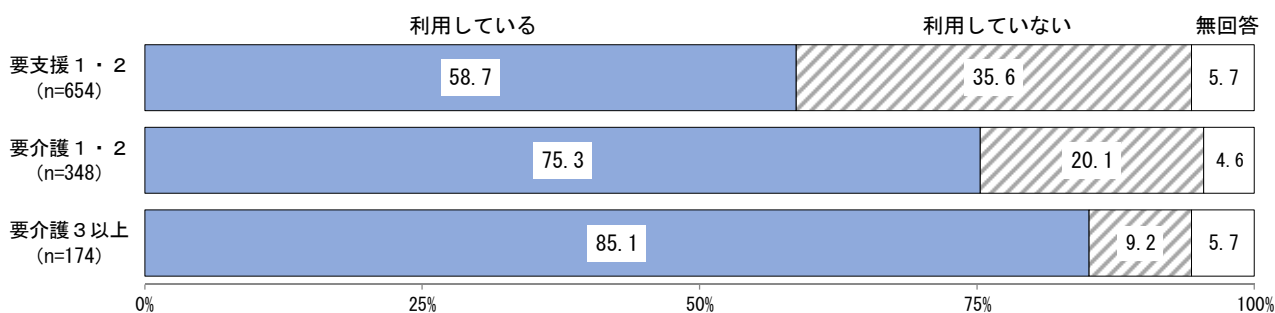
(5) 介護保険サービスの利用状況 (※住宅改修, 福祉用具貸与・購入以外)

(住宅改修, 福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用している割合は6割台(67.6%)となっており、前回調査(64.7%)から2.9ポイント増えている。



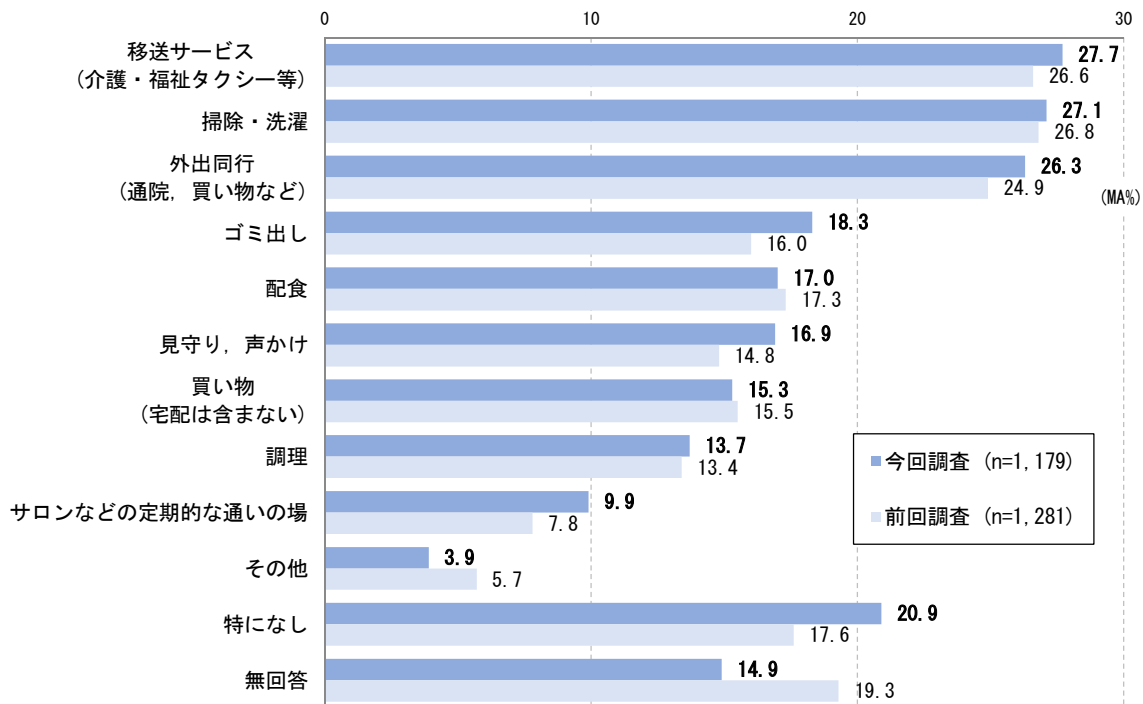
要介護度別にみると、利用している割合が、要支援1・2で58.7%に対し、要支援1・2では75.3%、要介護3以上では85.1%と高くなっている。

【要介護度別 介護保険サービスの利用状況】



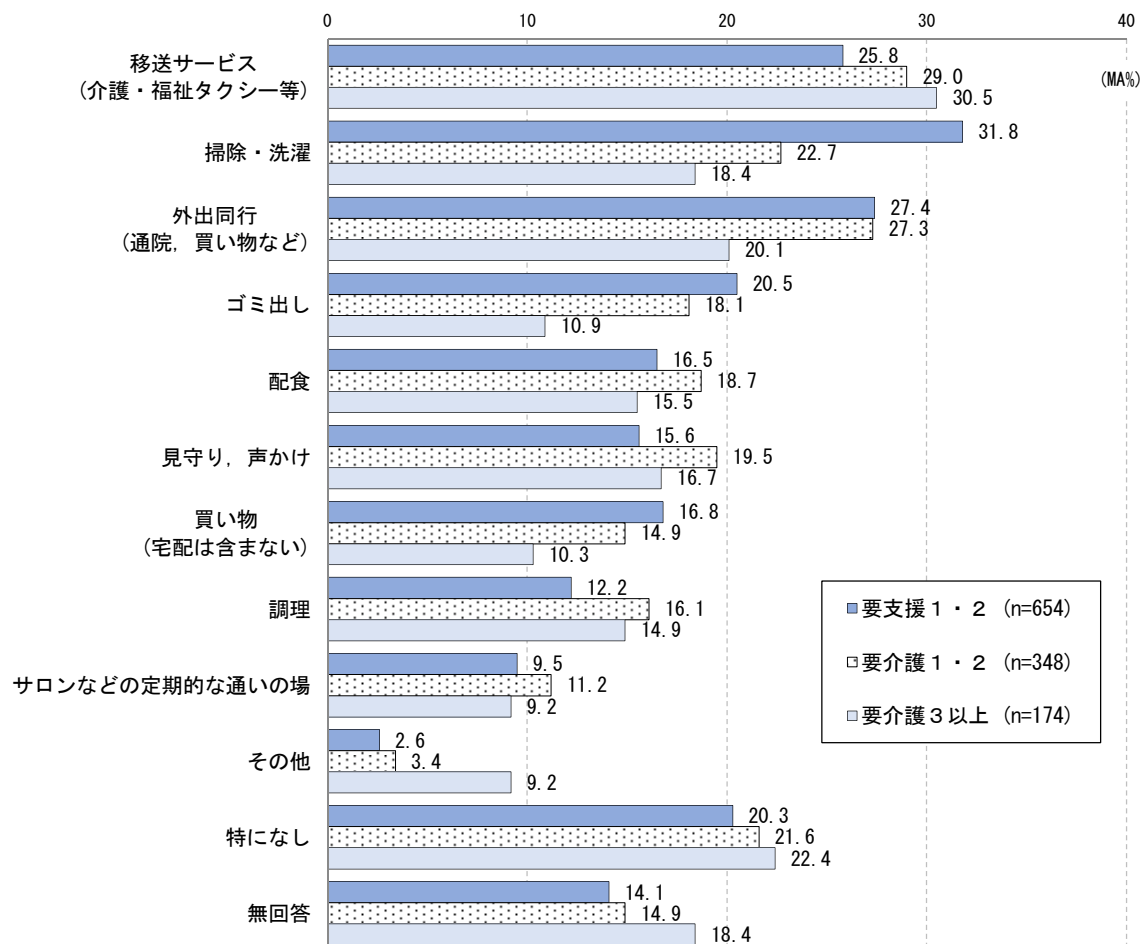
(6) 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が 27.7%、「掃除・洗濯」が 27.1%、「外出同行(通院, 買い物など)」が 26.3%と多くなっており, 前回調査と同じ傾向となっている。



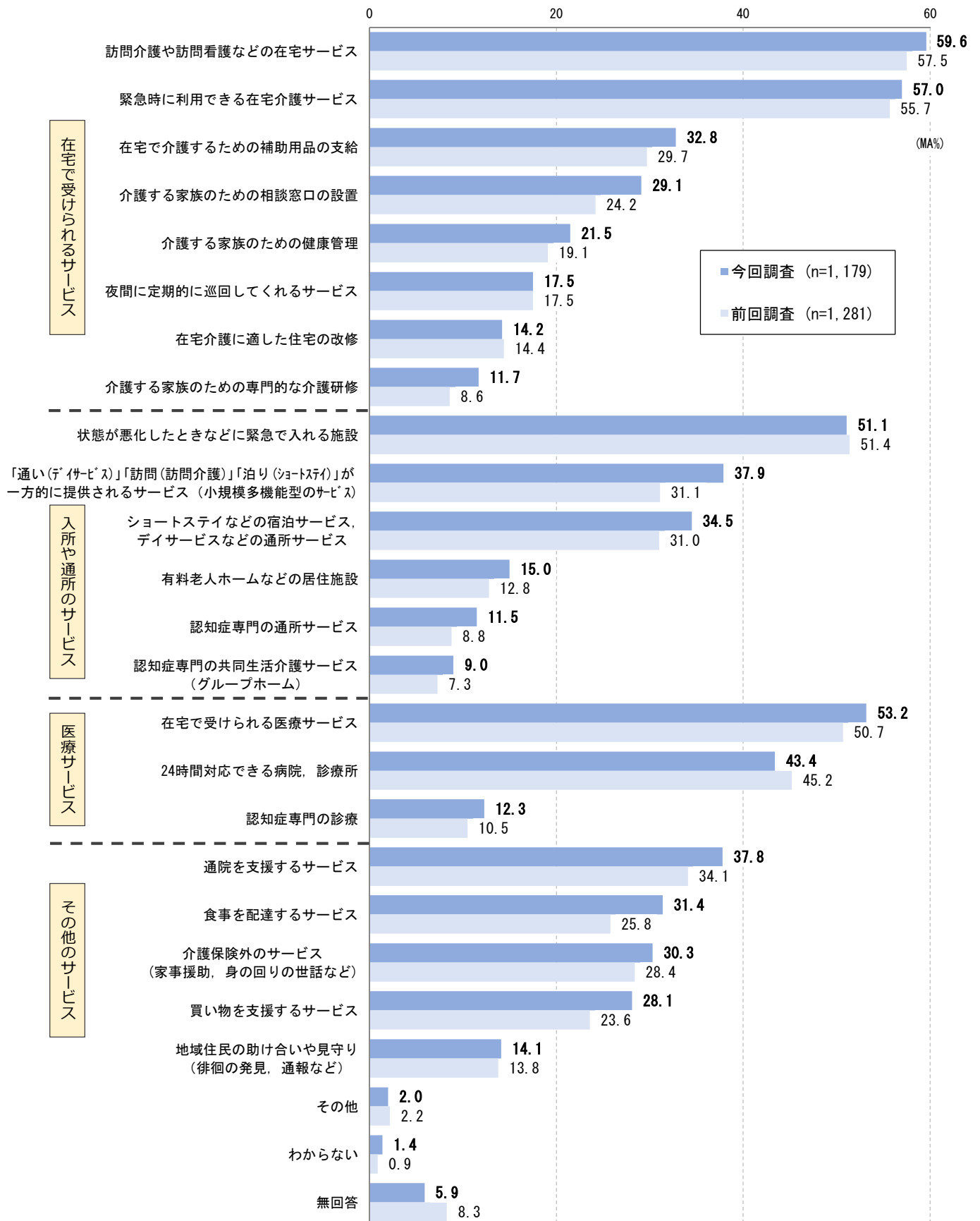
要介護度別にみると, 「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が要介護1・2で 29.0%, 要介護3以上で 30.5%と, ともに最も多くなっているのに対し, 要支援1・2では「掃除・洗濯」が 31.8%と最も多い。

【要介護度別 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】



(7) 身の回りのことができなくなったときに必要なサービス

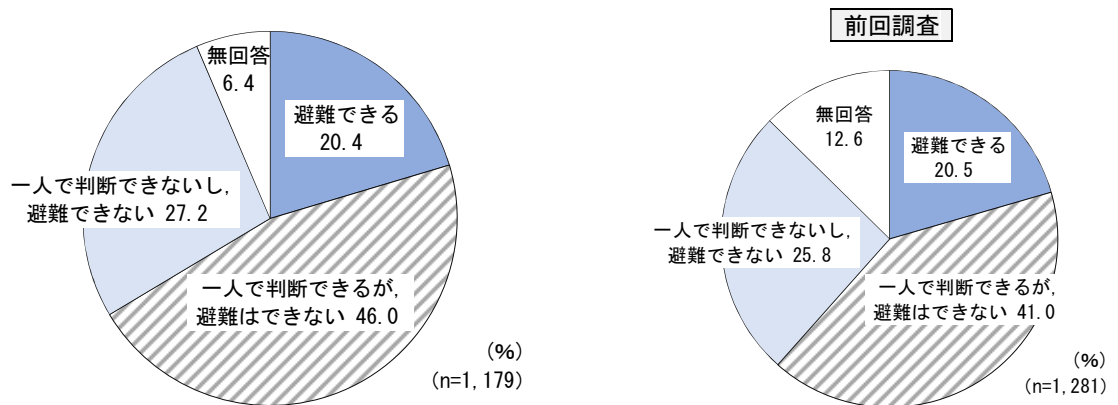
「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が 59.6%と最も多く、次いで「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が 57.0%、「在宅で受けられる医療サービス」が 53.2%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が 51.1%となっており、前回調査と同じ傾向となっている。



(8) 災害時の対応

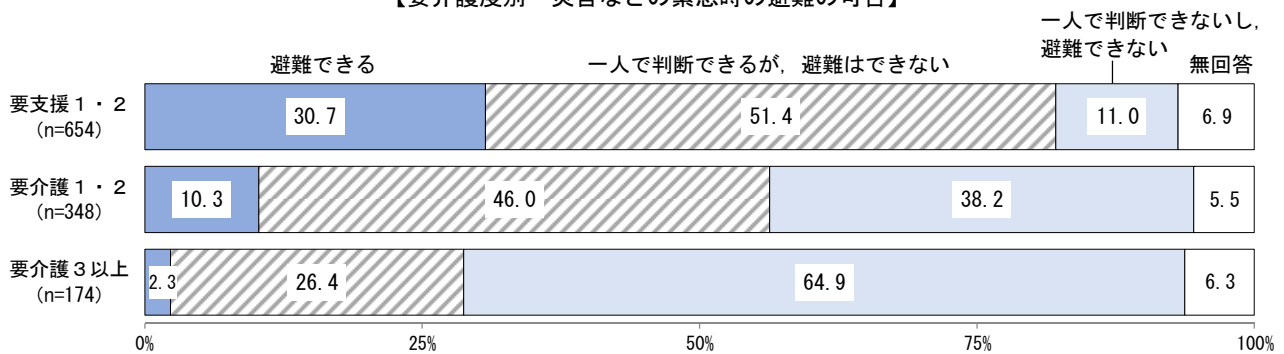
①災害などの緊急時の避難の可否

一人で避難することができない割合(「一人で判断できるが、避難はできない」「一人で判断できないし、避難できない」の計)は7割台(73.2%)を占めており、前回調査(66.8%)から6.4ポイント増えている。



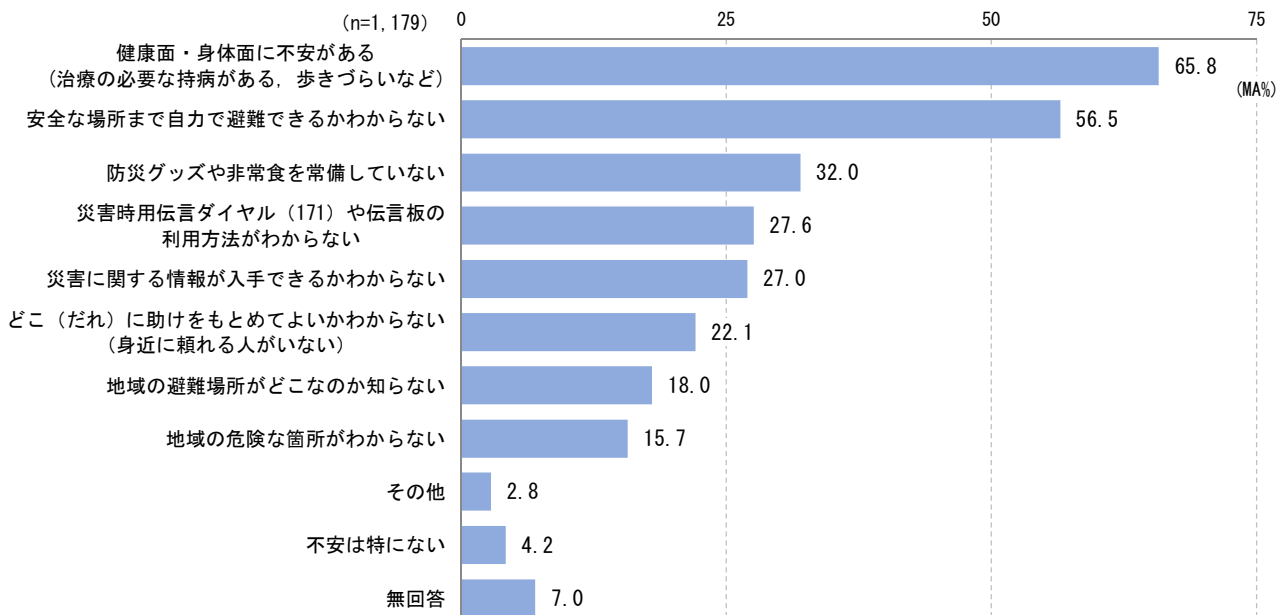
要介護度別にみると、「避難できる」が、要支援1・2で30.7%に対し、要介護1・2では10.3%、要介護3以上では2.3%にとどまっている。

【要介護度別 災害などの緊急時の避難の可否】



②災害時に対し不安に思うこと

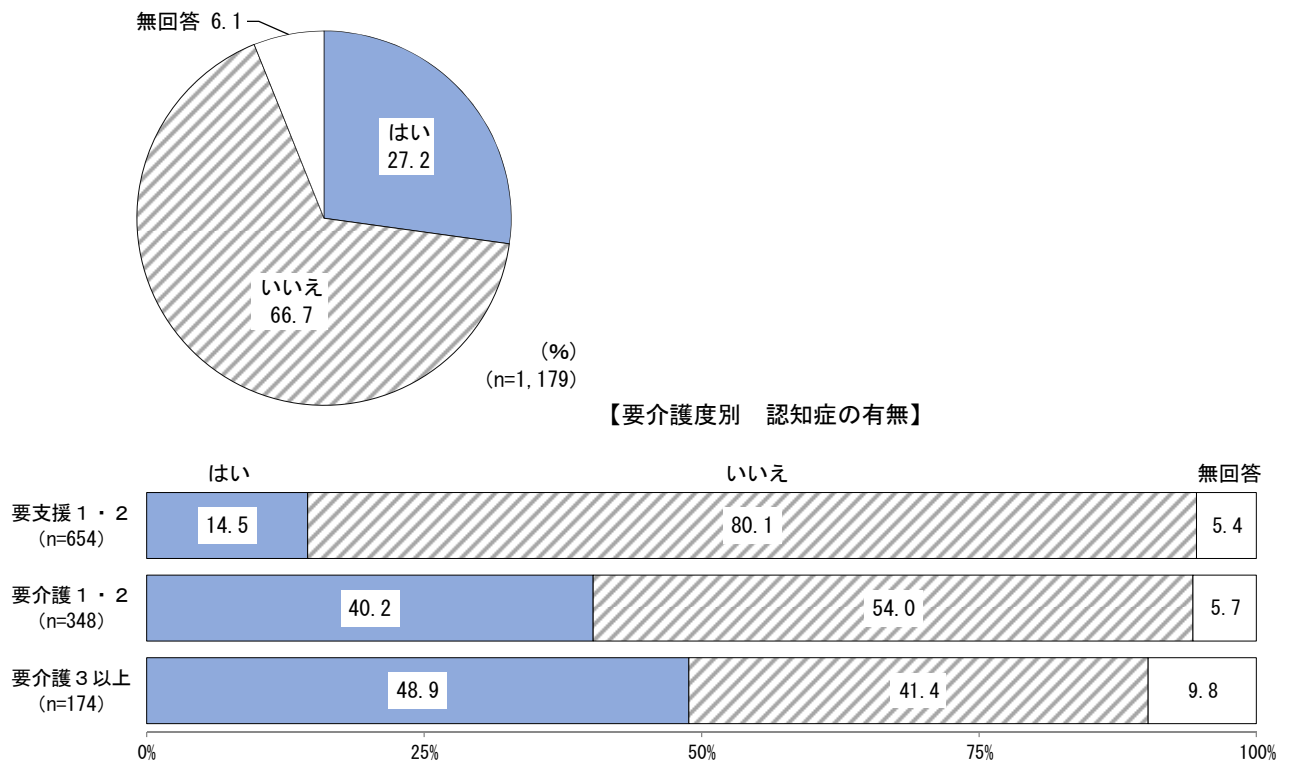
「健康面・身体面に不安がある」が65.8%と最も多く、次いで「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が56.5%となっている。



(9) 認知症に対する認識

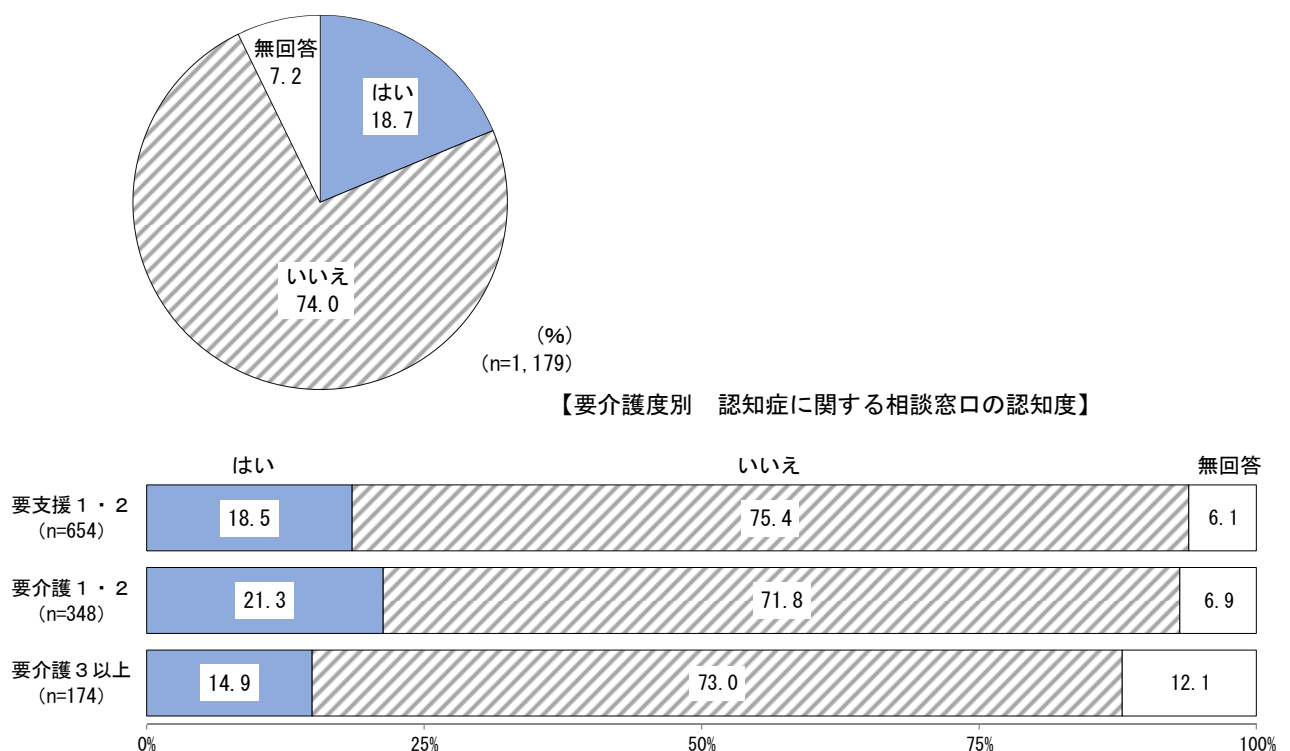
① 認知症の有無

自身や家族の中に認知症の症状があるという割合(「はい」)は 27.2%となっている。
要介護度別にみると、要支援1・2では1割台に対し、要介護者では4割台を占めている。



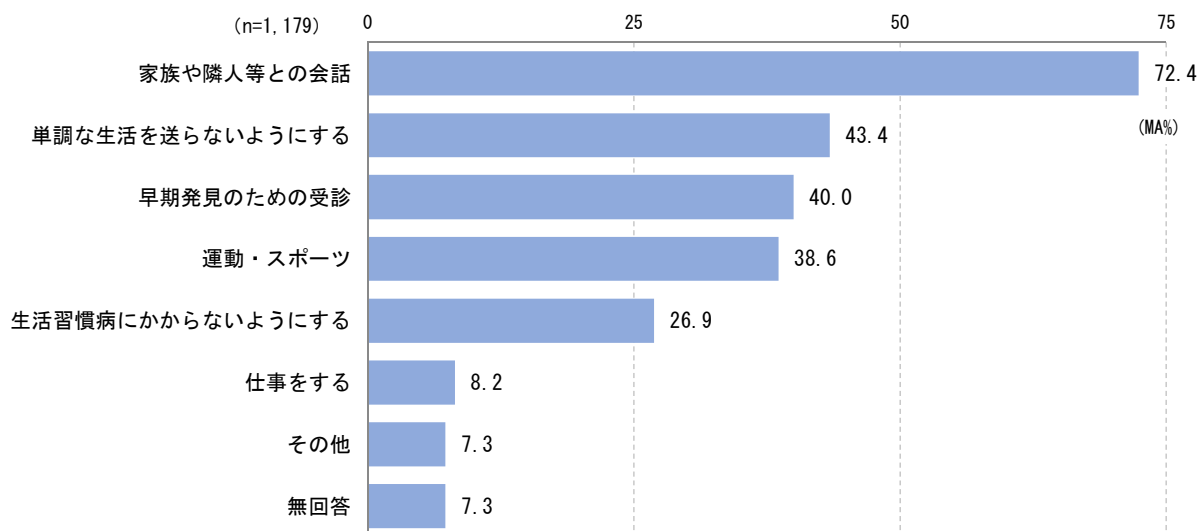
② 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているという割合(「はい」)は 18.7%となっている。
要介護度別にみると、要介護3以上で 14.9%とやや低い。



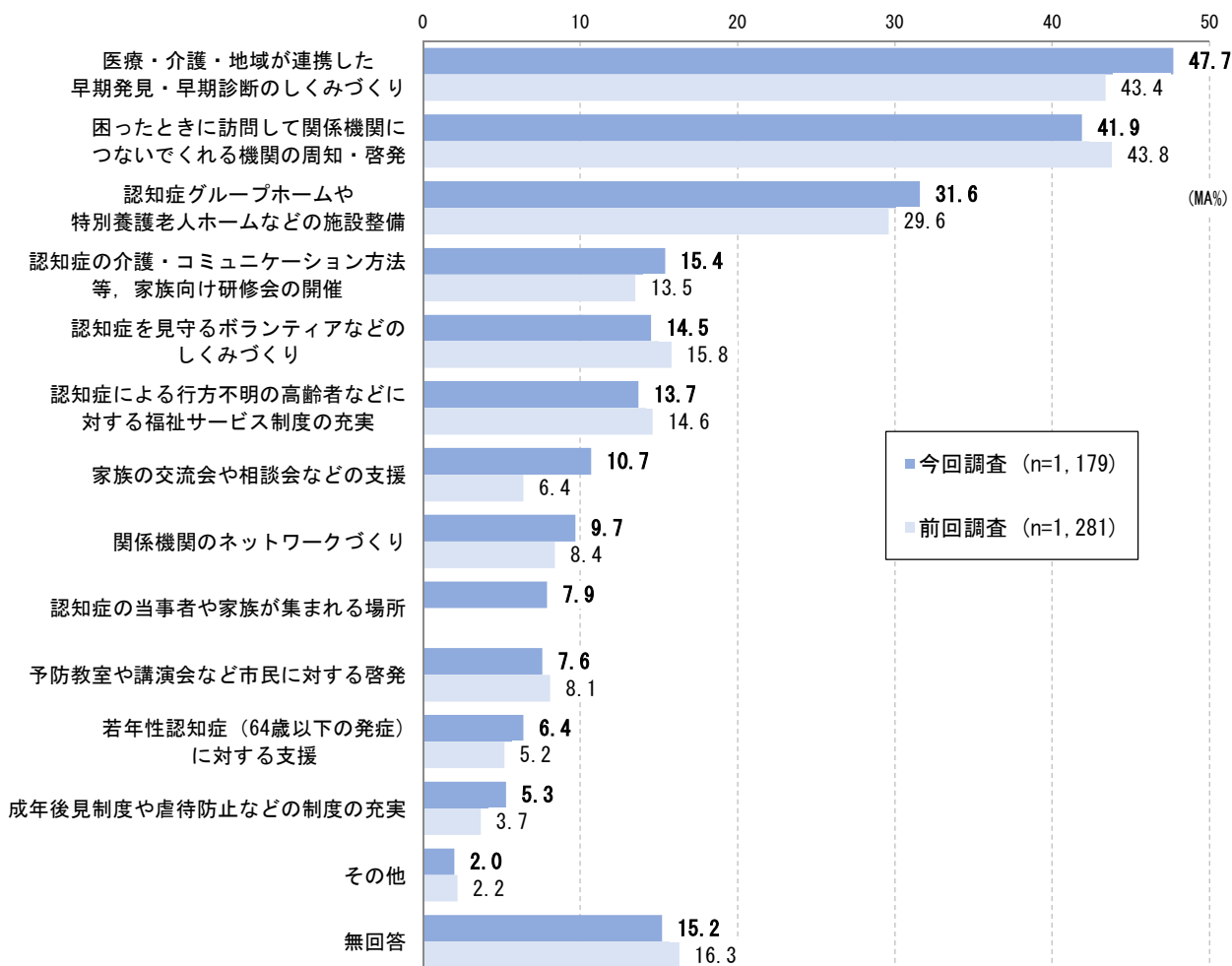
③認知症予防の方法として重要と思うこと

「家族や隣人等との会話」が72.4%と最も多く、次いで「単調な生活を送らないようにする」が43.4%、「早期発見のための受診」が40.0%となっている。



④認知症の人への支援で必要と思うこと

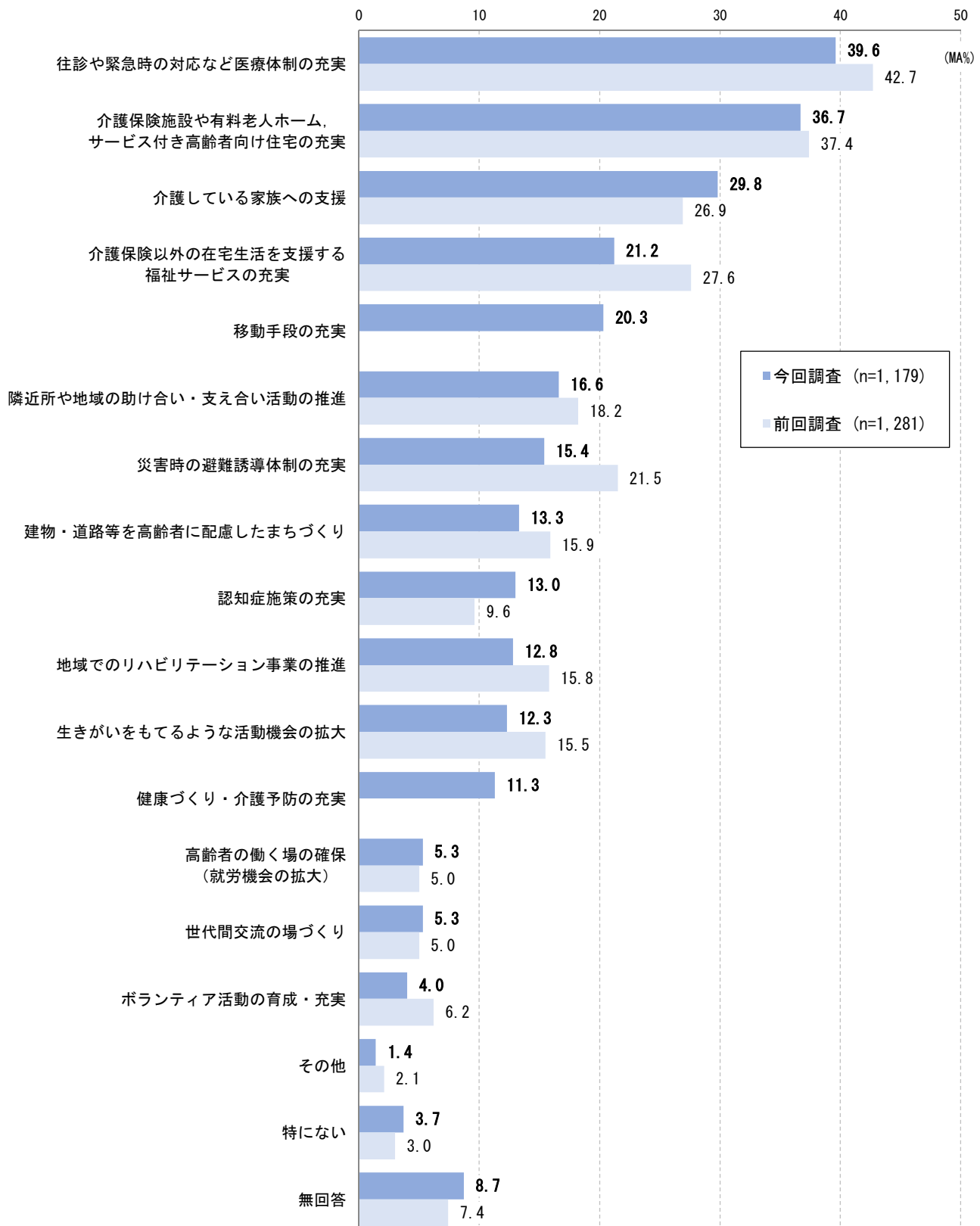
「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が47.7%と最も多く、前回調査(43.4%)から4.3ポイント増えている。また、これに続くのが、「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」で41.9%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」で31.6%となっている。



(10) 高齢者への支援として必要と思うこと

「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が39.6%と最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が36.7%、「介護している家族への支援」が29.8%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が21.2%となっている。

前回調査と比べると、多くの項目が減少傾向にある中で、「認知症施策の充実」(今回13.0%、前回9.6%)で3.4ポイント、「介護している家族への支援」(前回26.9%)で2.9ポイント、それぞれ増えている。

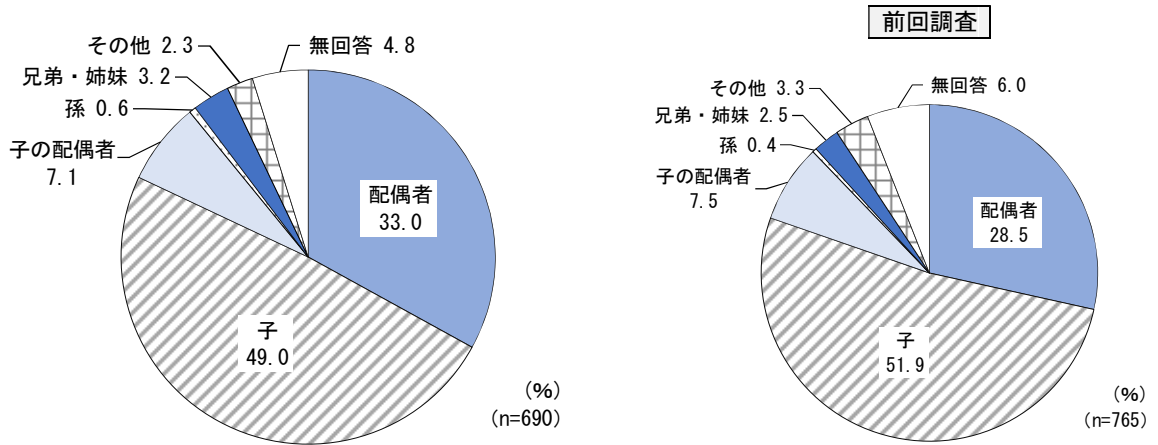


※「健康づくり・介護予防の充実」、「移動手段の充実」は前回調査なし。

(11) 主な介護者の状況（※家族や親族から介護を受けていると回答した人）

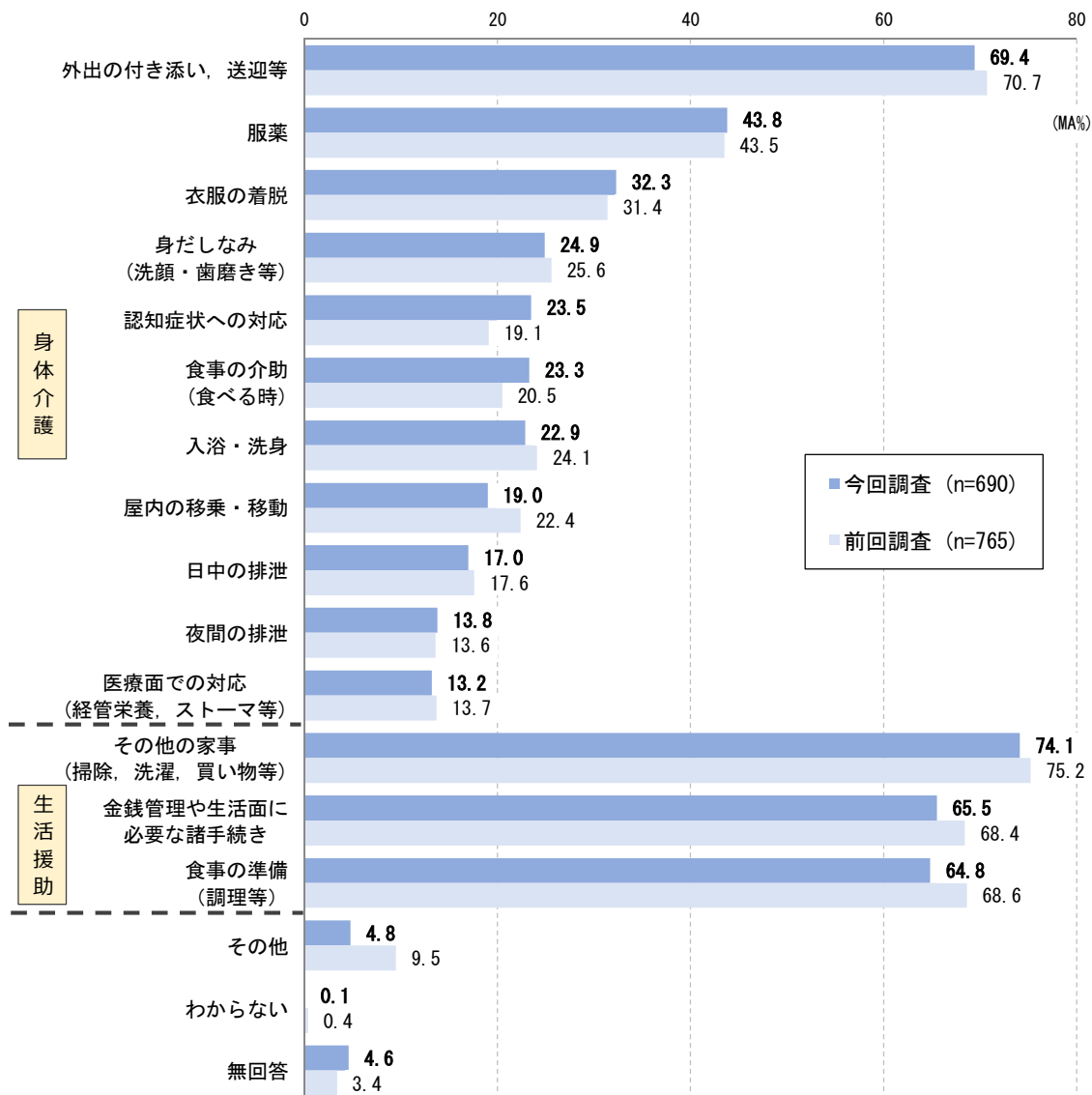
①主な介護者の続柄

子どもから主に介護を受けている割合（「子」「子の配偶者」の計）が半数以上（56.1％）を占めており、次いで「配偶者」が33.0％となっている。



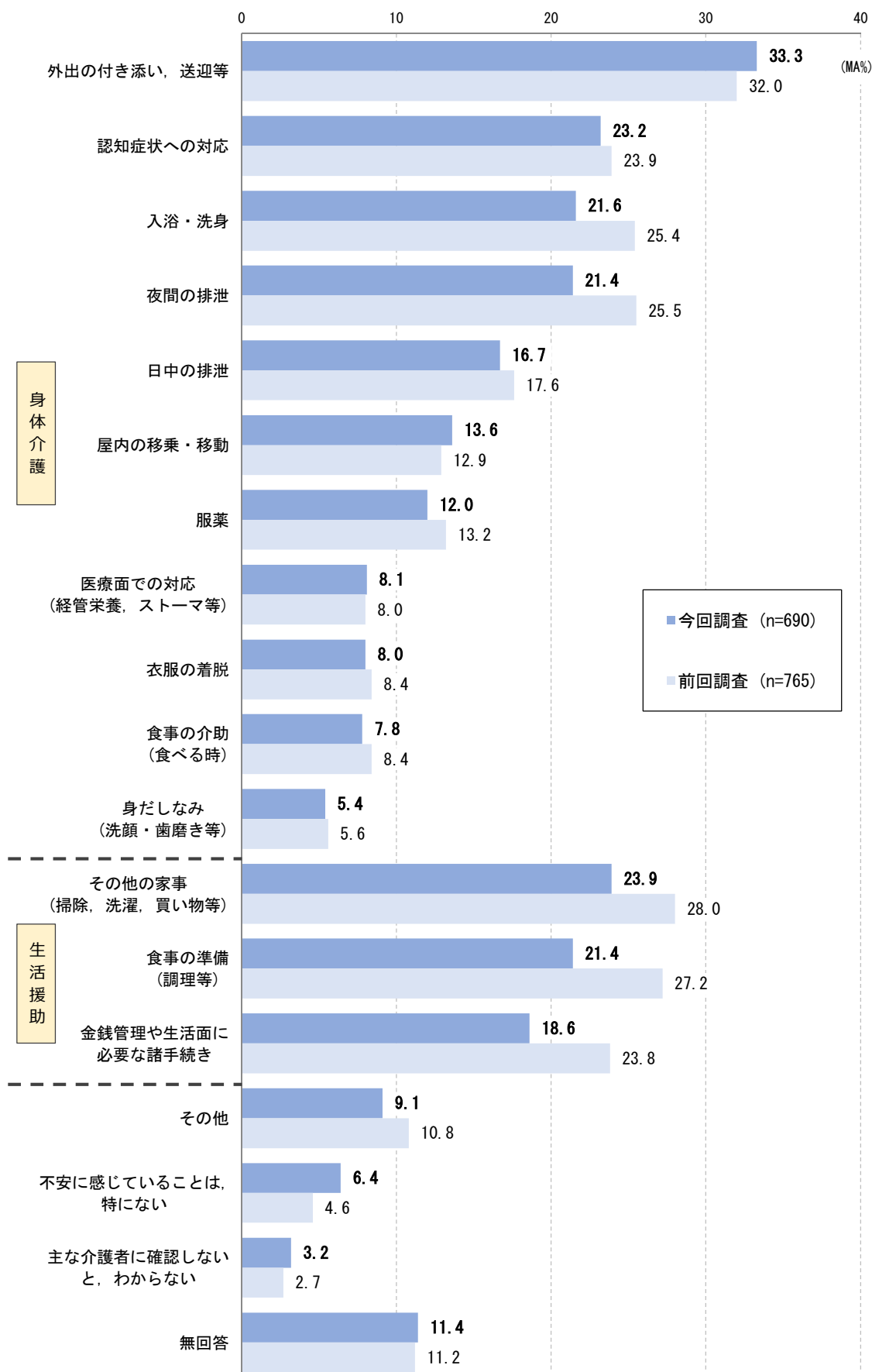
②介護等の内容

生活援助に関する内容がいずれも6～7割台と多く、身体介護に関する内容では「外出の付き添い、送迎等」が約7割と多くっており、前回調査と同じ傾向となっている。



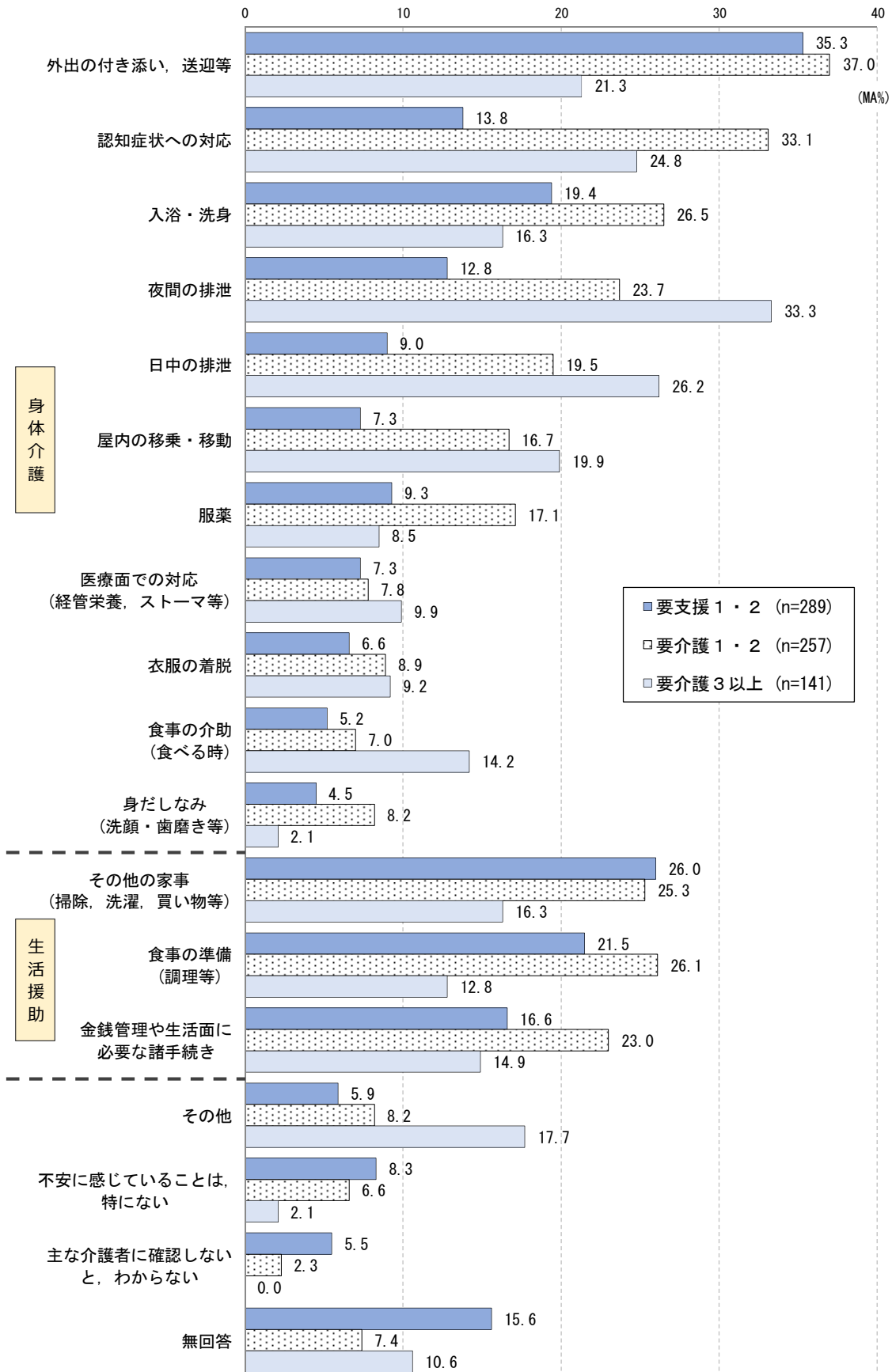
③不安に感じる介護等の内容

「外出の付き添い、送迎等」が33.3%と最も多く、前回調査(32.0%)から1.3ポイント増えている。一方、このほかの項目では概ねいずれも減少傾向にある。



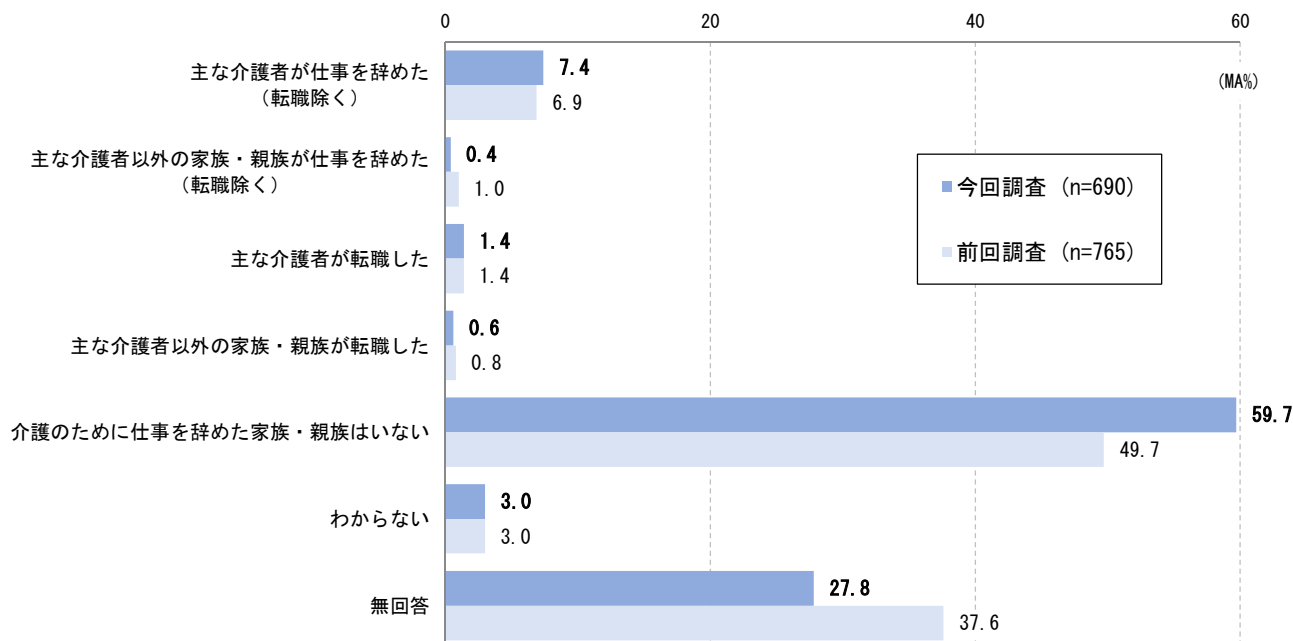
要介護度別にみると、「外出の付き添い、送迎等」が要支援1・2で35.3%、要介護1・2で37.0%と、ともに最も多くなっており、これに続くのが、要支援1・2では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」で26.0%、要介護1・2では「認知症状への対応」で33.1%となっている。一方、要介護3以上では「夜間の排泄」が33.3%と最も多く、次いで「日中の排泄」が26.2%となっている。

【要介護度別 不安に感じる介護等の内容】



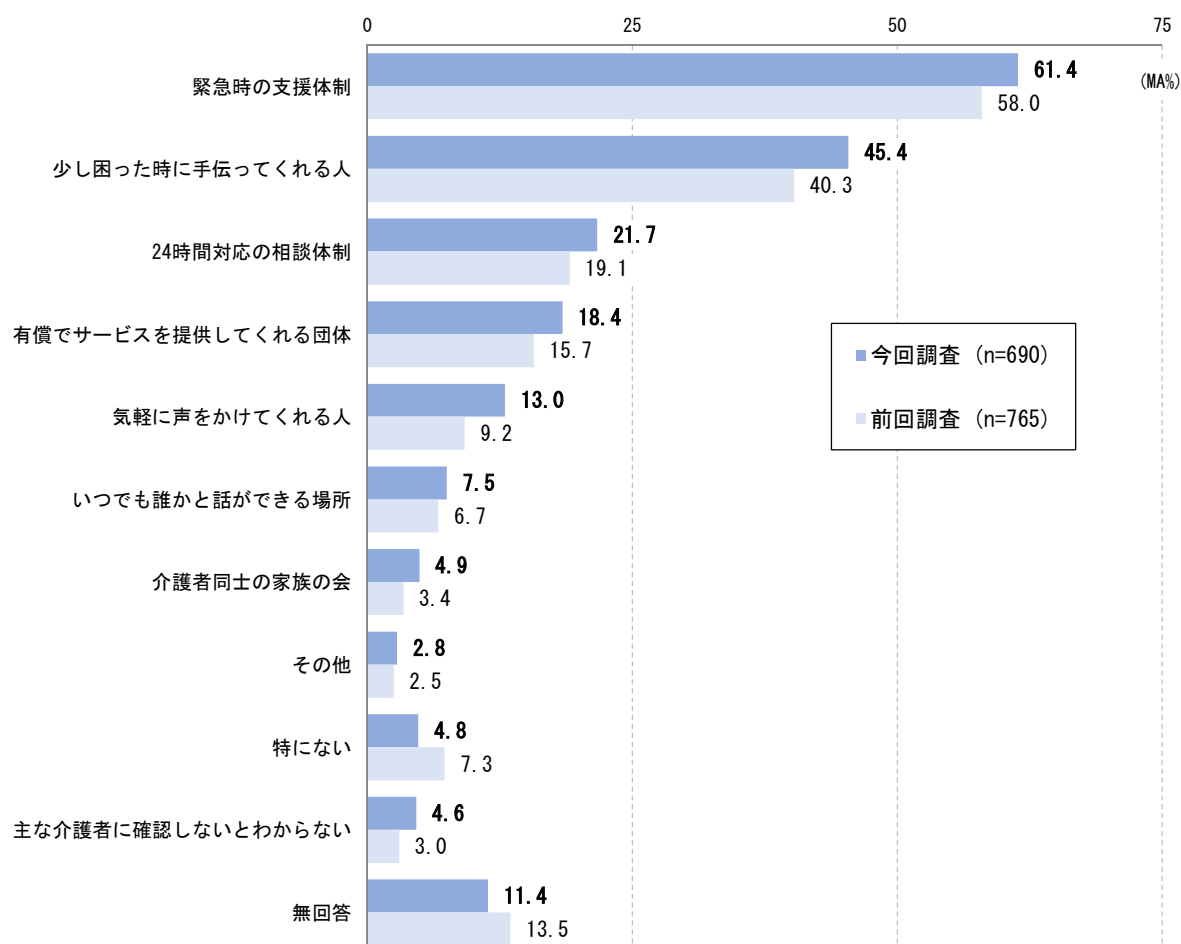
④介護離職の状況

介護のために仕事を辞めた(または転職した)という介護者(「介護のために仕事を辞めた家族・親族はない」「わからない」「無回答」を減算した割合)は、全体の約1割(9.4%)となっており、前回調査(9.7%)と同程度となっている。



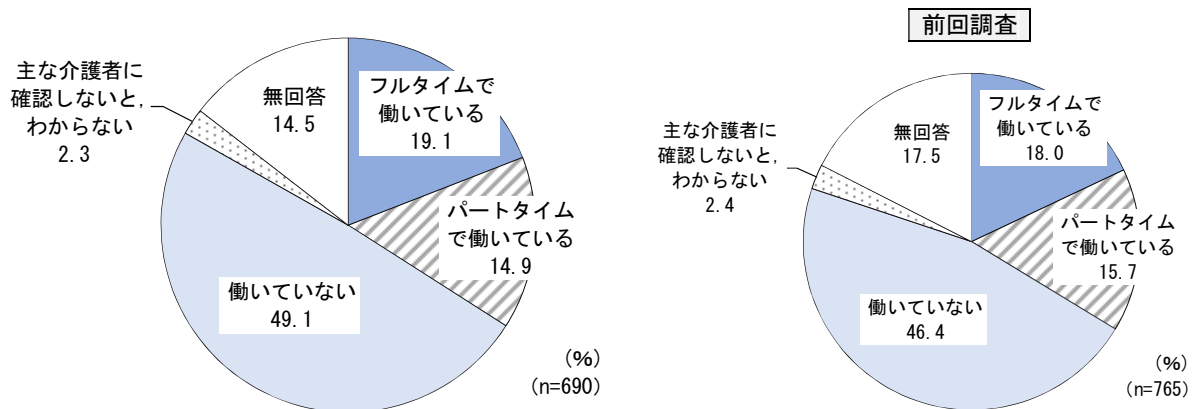
⑤在宅生活の継続のために必要と感じる地域での支援

「緊急時の支援体制」が61.4%と最も多く、次いで「少し困った時に手伝ってくれる人」が45.4%となっており、前回調査と同じ傾向となっているものの、ともに5ポイント前後増えている。



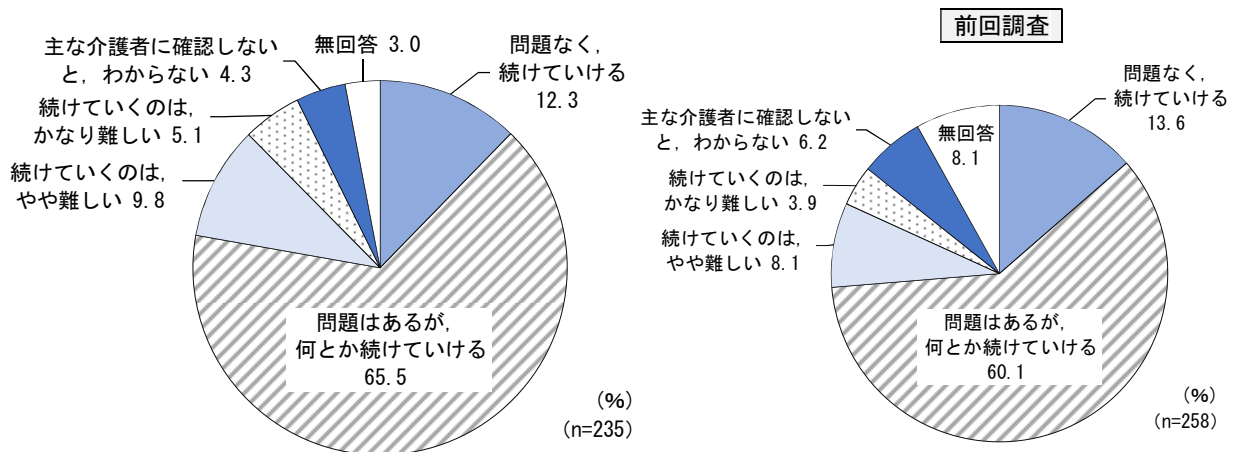
⑥就労状況

「フルタイムで働いている」が19.1%、「パートタイムで働いている」が14.9%となっており、合わせると、働いている介護者は3割台(34.1%)みられ、前回調査(33.7%)と同程度となっている。



⑦仕事と介護の両立の可否 (※現在、働いている介護者)

現在、働いている介護者のうち、働きながら介護を続けていくのは難しいと回答した割合(「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」の計)は1割台(14.9%)となっており、前回調査(12.0%)から2.9ポイント増えている。



要介護度別にみると、続けていくのは難しいという割合が、要支援1・2で11.9%に対し、要介護1・2では17.4%、要介護3以上では17.5%と高くなっている。

【要介護度別 仕事と介護の両立の可否】

